

## 所員

## 専任教員

時田アリソン TOKITA Alison

役職：所長

専門：音楽学・日本の語り物芸能

藤田 隆則 FUJITA Takanori

役職：教授

専門：民族音楽学

山田 智恵子 YAMADA Chieko

役職：教授

専門：音楽学・三味線音楽・義太夫節

田鍬 智志 TAKUWA Satoshi

役職：准教授

専門：日本音楽史・民俗芸能

竹内 有一 TAKEUCHI Yuuichi

役職：准教授

専門：日本音楽史・近世邦楽

武内 恵美子 TAKENOUCHI Emiko

役職：准教授

専門：音楽学・日本音楽史・音楽思想史

## 客員教授

徳丸 吉彦 TOKUMARU Yoshihiko (2016年3月任期満了) 専門：音楽学

竹本 駒之助 TAKEMOTO Komanosuke (2015年4月新任、2016年3月任期満了) 専門：義太夫節

## 非常勤講師

大西 秀紀 ONISHI Hidenori (2016年3月任期満了) 担当：特別研究員、専門：近代芸能史

梶丸 岳 KAJIMARU Gaku

担当：特別研究員

専門：文化人類学・民族音楽学

竹内 直 TAKEUCHI Nao

担当：特別研究員

専門：現代音楽論・日本近代洋楽史

東 正子 HIGASHI Masako

担当：情報管理員、専門：デジタルコンテンツ制作、ネットワーク管理

## 非常勤嘱託員

齋藤 尚 SAITOO Hisashi

担当：学芸員・司書

高久 直子 TAKAKU Naoko (2016年3月任期満了) 担当：司書

## お知らせ

平成 28 (2016) 年 4 月、新入所員が着任しました。

今藤 政太郎 (客員教授：長唄三味線方)

中安 真理 (非常勤講師：特別研究員)

森 万由美 (非常勤嘱託員：司書)

## 客員研究員

丹羽 幸江 NIWA Yukie

受入期間：2014年12月1日から2016年3月31日まで

所属：日本学術振興会特別研究員 (RPD)

研究課題：祝詞の音楽的研究

受入教員：藤田隆則

高橋 葉子 TAKAHASHI Yoko

受入期間：2014年12月1日から2016年3月31日まで

研究課題：能の謡と囃子の歴史

受入教員：藤田隆則

前島 美保 MAESHIMA Miho

受入期間：2015年10月1日から2017年3月31日まで

研究課題：上方歌舞伎の音楽演出に関する総合的研究

受入教員：竹内有一

## 学振受入研究員

丹羽幸江 NIWA Yukie

上記の通り

前島 美保 MAESHIMA Miho

上記の通り

## 共同研究員

計 43 名（所員を除く）。研究テーマ・氏名・所属先等は「活動報告 1」に記した。

## 委託研究

委託者：大西秀紀

テーマ：研究リソースとしての LP レコードのデータベース化・デジタル化—仏教音楽の全集ものを中心に—

（研究の目的）

本年度は、センターにおいて収集・保存されてきた膨大な点数の LP レコードコレクションを、研究リソースとしてさらなる活用をはかるため、特定分野の「全集もの」LP レコード（音源・解説書ともに学術的価値が非常に高いもの）の調査及びその一部のデータベース化・デジタル化を、外部研究者に委託する。

（研究のテーマ）

研究対象となり得る全集もの LP レコードの点数は膨大であるため、今年度は「仏教音楽」の分野を中心として、共同研究や公開講座において使用頻度の高いものを優先的に扱う。なお、予算と時間の制約上、来年度以降も焦点をあてる分野を変更しながら、同様の研究を継続する必要がある。

## 展 観

会場：新研究棟 7 階展観ブース

### (1) 『郷土研究 上方』の表紙絵展

平成 27 年 4 月 6 日（月）～ 8 月 13 日（木）

内容：『郷土研究 上方』は昭和 6 年（1931）1 月から昭和 19（1944）年 4 月まで刊行された雑誌です。大阪を中心とした上方の風俗・習慣・文芸・芸能などさまざまなジャンルの論考を掲載しており、上方文化を知る上での必読の書ともいえます。

『郷土研究 上方』は編集者の南木芳太郎の情熱により刊行されていました。その内容はもちろんのこと、表紙にまでこだわりが感じられます。表紙は主に大阪の祭礼や神社仏閣、風景などが木版画で描かれている

のですが、それは印刷ではなく木版画そのものを 1 枚ずつ貼り付けたものになっています。今回はこの表紙をすべてご覧いただけます。そのうち芸能に関するものなど、一部をピックアップして紹介いたします。今回展示する『郷土研究 上方』は当センターの前所長、後藤静夫名誉教授より全号を御寄贈いただきました。この場を借りて御礼申し上げます。



### (2) 「日本の楽器」

平成 27 年 8 月 16 日（月）～平成 28 年 2 月 5 日（金）

内容：でんおん連続講座 C「英語による日本音楽概論」の開催に際し、講座内で解説する日本の楽器を展示した。展示内の解説は日本語だが、英語による展示解説を配布した。一部の楽器については無線 LAN にて音声データを配信し、各自の携帯端末で楽器の音を聴けるようにした。



### (3) 日本伝統音楽にみる記譜のひろがり (その1) 中世起源の音曲を中心に

平成 28 年 2 月 15 日 (月) ~ 5 月 12 日 (木)

内容：本学芸術資源研究センターの公開研究会「伝統音楽における記譜について - 声明と謡を中心に」の開催に際し、声明譜と謡本を展示した。声明譜は宗派による記譜法の違い、謡本は流派による記譜法の違いを比較できるようにした。



## 出版物 一書籍一

### 『日本伝統音楽研究』第 12 号

京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター研究紀要  
京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター発行、  
2015 年 6 月 30 日、A4 横組・縦組 92pp

内容：< 研究ノート > 田鍬智志「鎌倉時代の舞樂—  
『教訓抄』『続教訓抄』にみる上肢動作—

竹内直「早坂文雄の音楽感—「汎東洋主義」の音楽論  
の形成過程を中心に—

< 記録 > 土田牧子、前島美保、竹内有一「杵屋巳太郎  
師にきく—黒御簾音楽とその担い手—

時田アリソン「所長対談 徳丸吉彦先生に聞く—国際  
的視野でみた日本音楽と音楽学—

彙報、活動報告 1 プロジェクト研究・共同研究、活  
動報告 2 特別研究員、活動報告 3 専任教員

## 出版物 一ビデオディスク一

### 『雅楽 時空をこえた出会い—遠州の小京都 森町の舞楽×古代中世雅楽譜の解説—』(DVD)

本 DVD は図像や映像、ナレーションで構成される解説と、日本伝統音楽研究センター公開講座の様子の録画を収録。また、公開講座で配布された解説冊子も付属しています。

〔解説〕 平安末期・鎌倉期の雅楽史料からうかがえる音楽様式と遠州森町十二段舞楽の笛旋律

出演：でんおん管絃講・白幡富幸（遠江国一宮小國神社古式舞楽保存会指南役）

ナレーション：田鍬智志

〔実演〕 遠州森町に伝わる十二段舞楽×古代中世古雅楽譜の解説

- 1) 小國神社伝承《連舞》舞の上演
- 2) 天宮神社伝承《色香の急》×平安末期・鎌倉期の雅楽譜の解釈による〈迦陵頻急〉
- 3) 小國神社伝承《蝶の舞の急》×平安末期・鎌倉期の雅楽譜の解釈による〈胡蝶楽急〉
- 4) 天宮神社伝承《太平楽の急》×現行の雅楽〈太平楽急〉
- 5) 小國神社伝承《新まく》×平安末期・鎌倉期の雅楽譜の解釈による〈新鞆鞆〉
- 6) 天宮神社伝承《納曾利の急》×平安末期・鎌倉期の雅楽譜の解釈による〈納曾利急〉

出演：遠江国一宮小國神社古式舞楽保存会・天宮神社十二段舞楽保存会、でんおん管絃講

司会：野町菜々子

講演日時：2014 年 9 月 14 日 13 時—16 時

会場：京都市西文化会館ウエスティホール

刊行日：平成 27 年 7 月 30 日

編集・発行所：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター



## 『「平家」から見た日本音楽の歴史』(DVD)

本DVDは日本伝統音楽研究センター公開講座の様子の録画を収録。また、公開講座で配布された解説冊子も付属しています。

講演 古代と近世の音楽を繋ぐ平家 薦田 治子  
実演

1. 平家語り《鱸》より 菊央 雄司、田中 奈央一、日吉 章吾
2. 雅楽琵琶と平家 齊藤 尚 + 菊央 雄司
3. 地歌と平家 長谷川 慎 + 菊央 雄司
4. 義太夫節と平家 伝音所蔵品川コレクション〈松波琵琶の段〉の音盤について 田中 悠美子 + 菊央 雄司
5. 山田流箏曲と平家 田中 奈央一 + 菊央 雄司
6. 平家語り《祇園精舎》より 菊央 雄司、田中 奈央一、日吉 章吾

刊行日：平成27年11月25日

編集・発行所：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター



## デジタルアーカイブ

日本伝統音楽研究センターWEBサイトにおいて、収蔵資料検索データベース、sp音源試聴コーナー、伝音アーカイブズ、プロジェクト・共同研究の報告、催事案内等を公開し、随時更新を行っている。2015年度新設分は以下の通りである。

(1) 雅楽 時空をこえた出会い

—遠州森町の十二段舞楽 × 古代中世雅楽譜の解説—  
田鍬智志 2015/4/9 公開

第38回公開講座「雅楽 時空をこえた出会い—遠州の

小京都 森町の舞楽 × 古代中世雅楽譜の解説—」  
(2014年9月14日)の内容の一部を動画つきでまとめたものです。

(2) 常磐津節の伝承—現行曲調査— 竹内有一  
2015/4/23 公開

常磐津節の伝承の盛衰を、演目ごとに徹底調査した、史上初めての試みです。とくに、伝承の衰退が危惧される稀曲の情報に留意しています。(学外サーバー)

(3) 上方座敷歌の研究 井澤壽治 2016/2/10  
更新

故・井澤壽治(としはる)氏が、当センターにおいて、上方座敷歌の歌詞・解説・語釈・オリジナル演奏を集成した研究成果です。演奏音源をお聞きいただける仕様にアップデートしました。

## 第41回公開講座

### 『「平家」から見た日本音楽の歴史』

企画・解説・司会：薦田治子(山田プロジェクト研究共同研究員/武蔵野音楽大学教授)

制作：山田智恵子(日本伝統音楽研究センター教授)

日時：平成27年6月13日(土) 午後1時~4時

会場：ウイングス京都イベントホール

内容：『平家物語』を琵琶伴奏で語る音楽のことを「平家」といいます。「平家」は鎌倉時代に誕生し、琵琶法師によって語り継がれ、今日まで伝承が残されています。平家の音楽は、古代の雅楽と声明の音楽を引き継ぎ、同時代の能と共通する特徴を持ち、さらに、近代の三味線音楽にも大きな影響を与えます。本企画では、平家の音楽を紹介するとともに、さまざまな日本の音楽と平家との関係を探ります。

プログラムと出演者

平家語り《鱸》より 菊央雄司・田中奈央一・日吉章吾

雅楽と平家琵琶 齊藤尚・菊央雄司

地歌と平家琵琶 長谷川慎・菊央雄司

義太夫節と平家琵琶 田中悠美子・菊央雄司

山田流箏曲と平家琵琶 田中奈央一・菊央雄司

平家語り《祇園精舎》より 菊央雄司・田中奈央一・日吉章吾





## 第42回公開講座

### 「掛唄から見る即興と相互行為」

企画構成：梶丸 岳（日本伝統音楽研究センター特別研究員）

日時：平成27年10月3日（土）14時～16時

会場：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター（新研究棟7階）合同研究室1

内容：秋田県は「民謡王国」などとも称され、非常に民謡の盛んな地域として知られています。本公開講座で取り上げる「掛唄」は秋田県横手市や美郷町で歌われている掛け合い歌です。江戸時代に起源があるとされるこの歌は、仙北荷方節という民謡の節に即興で歌詞をつけて掛け合う、日本でもとても珍しいものです。この講座では掛唄の背景となる秋田民謡と掛唄の実演、そして研究者や歌手を交えた議論を通じて、掛唄の独自性の核にある「歌詞の即興」と「掛け合い＝相互行為」について捉えなおし、掛唄をふくめた民謡のおもしろさと奥深さを改めて考えます。

上演：金澤八幡宮伝統掛唄保存会

総合討論：島添 貴美子（富山大学）、細馬 宏通（滋賀県立大学）



## 第43回公開講座

### 「義太夫節の精華 —竹本駒之助 九段目を語る—」

企画・構成・司会：山田 智恵子（日本伝統音楽研究センター教授）

日時：平成27年11月28日（土）13:30～16:00

会場：ウイングス京都イベントホール

「義太夫節」は人形浄瑠璃の流派で、その台本・浄瑠璃本を全国に流布させた、我が国最大の三味線音楽です。竹本駒之助師は「女流義太夫」の太夫（語り手）で唯一の人間国宝。本学の客員教授にお迎えして、大曲『仮名手本忠臣蔵』九段目切「山科隠家の段」丸一段を演奏していただきます。義太夫節の素晴らしさをみなさまに体感していただきたいと願っています。

演奏：竹本 駒之助（女流義太夫、本学客員教授、人間国宝）、鶴澤津賀寿（三味線）

講演：神津 武男（早稲田大学演劇博物館招聘研究員）



## 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター15周年記念シンポジウム

### 「伝統音楽の身体にふれる—新しい知に向けて—」

日時：平成28年3月2日（水）15:00～17:30

共催：京都市 五感で感じる和の文化事業「まなぶ・かんじる・かんがえる 伝統音楽の知に遊ぶ1日」第一部

会場：京都芸術センター 講堂

内容：

日本の伝統音楽・伝統芸能には、どのような“知”が隠されているのでしょうか？伝統を伝えるためには、厳しい身体の修練が大切です。そして伝統音楽の演奏は身体の動きの流れそのものです。このシンポジウム＋ワークショップでは、伝統音楽や伝統芸能の身体が「新しい楽しみを与えてくれるもの」「新しい知の領域をきりひらくもの」となり得ることを明らかにします。それをふまえて、未来の伝統音楽・伝統芸能の実践・鑑賞・研究は、どのように関係しあっていくのかを考えます。

◇挨拶 鷲田 清一（京都市立芸術大学学長）

◇ワークショップ 古琴の思想と身体（武内恵美子）

15:15-15:35

中国で古くから演奏されてきた古琴は、思想と深く結びつき、「琴資簡静」を基本として心構えや体の使い方を規定しました。また宇宙や自然あるいは感情を表現するために、独特な技法を用いることもあります。日本でもその豊かな文化に憧れ受け入れられてきた琴の静穏幽韻な世界観とそれを表現するための身体の関係性について紹介します。

◇トークショー＋ワークショップ 伝統音楽の知に遊ぶ

\*安田 登氏にきく 15:35-16:25

中国の古代哲学、日本の古典文学、ロルフィング、能の身体技法などを、独自なかたちで組み合わせ、横断させつつ、身体と声を基礎とした新しい「人文」の知を創造してこられた安田氏。現在は、伝統を基盤とした新しい声のパフォーマンスに挑戦しておられます。お話とワークショップを通じて、伝統音楽の声と身体の可能性をまなびましょう。

\*小林 昌廣氏にきく 16:25-17:05

伝統音楽の伝承に欠くことができないのは「観客」。目や耳を肥やすことでえられる独特の楽しみは、身体と、さらには学術研究と、どのようにかわってくるのでしょうか。豊かな鑑賞経験に基づいて、独自の身体論を展開してこられた小林氏に、伝統の生成について、また未来の観客のあり方について、考えを語っていただきます。

質問の時間：17:05～17:25

司会進行・聞き手：藤田隆則（日本伝統音楽研究センター教授）、挨拶：時田アリソン（日本伝統音楽研究センター所長）

出演者：武内恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）、安田登（能楽師、ワキ方下掛宝生流）、小林 昌廣（情報科学芸術大学院大学教授）。



## 第44回公開講座

「義太夫節 通し狂言の復曲」

日時：平成28年3月2日（水）18:00～20:30

共催：京都市 五感で感じる和の文化事業「まなぶ・かんじる・かんがえる 伝統音楽の知に遊ぶ1日」第二部

会場：京都芸術センター 講堂

内容：人形浄瑠璃文楽は、江戸時代以来大正末期まで、物語の発端から上演する「通し狂言」が基本的上演様式でした。しかし、昭和初期以降、見取り方式に切り替えられ、それにより、人から人への伝承を失った曲が多くあります。今回は、復元するための資料を研究者が整備して、曲の選定や復元の方法等を実演者と共同して進める試みとして、文楽の豊竹呂勢大夫師・鶴澤藤蔵師にご協力いただき、『ひらかな盛衰記』序切「栗津合戦の段」の復曲初演を行います。この公開講座は、科学研究費助成事業（基盤研究（B）課題番号24320042、研究代表者山田智恵子）の成果報告試演会です。

◇座談会 18:00～18:30

出演：後藤静夫（日本伝統音楽研究センター前所長）、竹内有一（日本伝統音楽研究センター准教授）、

神津武男（早稲田大学演劇博物館招聘研究員）  
 司会：山田 智恵子（日本伝統音楽研究センター教授）  
 ◇試演会 18：45～20：00  
 『ひらかな盛衰記』序切「栗津合戦段」復曲初演  
 浄瑠璃／豊竹 呂勢大夫、三味線／鶴澤 藤蔵  
 ◇アフタートーク 20：05～20：30  
 出演：豊竹 呂勢大夫、鶴澤 藤蔵  
 聞き手：神津 武男、山田 智恵子



## でんおん連続講座

### 連続講座 A 「音楽としての義太夫節」

講師：山田智恵子

開講日・時間 平成 27 年 5 月 13 日～7 月 15 日。

期間内の毎週水曜日、全 10 回、13 時～14 時 30 分

会場 京都市立芸術大学 新研究棟 7 階 合同研究室 1

内容：人形浄瑠璃文楽の音楽である義太夫節は、近年まで多くの人々にとって身近なものでした。しかし現在は、耳慣れないと感じる人が多いのが実情でしょう。この講義では、ことば（詞章）と旋律の關係に着目し、音楽としての義太夫節にスポットを当てます。今年度は、『ひらかな盛衰記』をとりあげ、「三段目 逆櫓の段」「四段目 神崎揚屋の段」を中心に、その詞章を音読した後、実際の演奏を聴いていきます。ことばと旋律の關係、および段の音楽様式（風）の問題など、義太夫節の音楽としての聴き方がわかるようになることを目指します。

5 月 13 日 「ひらかな盛衰記」の上演史※

20 日 義太夫節の音楽構造・義太夫三味線について

27 日 「三段目 逆櫓の段 その 1」

6 月 3 日 「三段目 逆櫓の段 その 2」  
 10 日 「三段目 逆櫓の段 その 3」  
 17 日 「三段目 逆櫓の段 その 4」  
 24 日 「四段目 神崎揚屋の段 その 1」  
 7 月 1 日 「四段目 神崎揚屋の段 その 2」  
 8 日 「四段目 神崎揚屋の段 その 3」  
 15 日 「四段目 神崎揚屋の段 その 4」と「まとめ」  
 ※ 第 1 回目は、ゲスト講師 神津武男氏（早稲田大学演劇博物館招聘研究員）をお招きして、お話を伺います。

受講料 5,000 円



### 連続講座 B 「性と役を語り分ける一常磐津節「うつぼ猿」実践入門一」

講師 常磐津若音太夫（竹内有一）日本伝統音楽研究センター准教授

開講日・時間：平成 27 年 6 月 9 日～7 月 28 日。

期間内の毎週火曜日、全 8 回、毎回 13 時～14 時 30 分

会場：京都市立芸術大学 新研究棟 7 階 合同研究室 1

内容：京都生まれの初世常磐津文字太夫が創始し江戸歌舞伎で大成させた常磐津節。作品研究を通じ、常磐津節の特徴である「せりふ」を語り分ける楽しみ、三味線との「間合い」、表現の鍵となる作品の構成や旋律を意識しながら、試演会を目指します。初心者を対象とします。三味線も体験できるよう配慮しますが、楽器の数により希望に添えない場合もあります（希望者は撥など計 3000 円程度の実費要）。

6 月 9 日 作品研究とワークショップ 1

16 日 作品研究とワークショップ 2

23 日 作品研究とワークショップ 3

30 日 作品研究とワークショップ 4



7月 7日 通し稽古1  
 14日 通し稽古2  
 21日 試演会  
 28日 まとめ  
 受講料 5,000円



### 連続講座 C 「英語による日本音楽概論」

講師：時田アリソン（日本伝統音楽研究センター所長）  
 開講日・時間：平成27年8月18日～20日の3日間。10：00～13：00；14：00～17：00で6つのセッション

会場：京都市立芸術大学 新研究棟 7階 合同研究室 1  
 内容：古くから現在まで伝承されている日本の音楽と、その近代的発展を、英語による講義で紹介いたします。英語で日本音楽をどう説明すればよいか、日本人と留学性が一緒に考えながら、手軽に日本の音楽文化が大まかな理解が得られることを目指します。雅楽、声明、平家・浄瑠璃の語りの音楽と演劇（能、文楽、歌舞伎）との関係や、楽器（三味線・箏・尺八）についての講義に加え、体験的なワークショップと、関連演奏会を予定しています。

\*この講座は英語で行います。

The course will be conducted in English with some Japanese as needed.

English information is here.

8月18日 第1セッション 日本音楽とは何かー今と昔。雅楽と声明  
 第2セッション 能、謡、狂言  
 19日 第3セッション 平家、薩摩、筑前の琵琶による語り物  
 第4セッション 文楽と歌舞伎における浄瑠璃、長唄

20日 第5セッション 地歌箏曲ー三味線、箏、尺八、第6セッション 民俗芸能と新しい「伝統芸能」一浪花節、和太鼓、津軽三味線

受講料 5,000円

参加者26名の内訳は以下の通りである。

- ・京都芸大学生10人、専攻は作曲、声楽、音楽学、管楽器など。
- ・講座のために5-7日間の来日した方5人、また東京から3人。
- ・韓国から2人の教授と一人の作曲家。ロシアサンクトペテルブルク州立大学の4年生、フロリダ州立大学博士課程大学院生、ウィーン音楽院で留学中のサクソフォン奏者。

そして、日本で留学中のミシガン大学院生（現在早稲田大学留学中）、オーストラリア出身で東京芸術大学邦楽科研修生、ポーランド出身で同志社大学留学中の大学院生、日本語夏期講習に東京に来ていたハワイ大学院生。

- ・京都在中の参加者のほとんどは日本音楽と関係が深いを持ち、能楽師、音楽ホールマネジャー、鼓奏者、尺八師範、箏曲教師、大学国際部の職員である。
- 三日目の夕方に演奏会「日本の音楽 宝船」を開催し、来場者は60名を超えた。



### 連続講座 D 「常磐津節実践入門『うつぼ猿』その2」

講師：常磐津若音太夫（竹内有一）日本伝統音楽研究センター准教授、補助：常磐津音花

開講日・時間：平成27年9月8日～11月3日。期間内の毎週火曜日、全8回、13時～14時30分  
 会場：京都市立芸術大学 新研究棟 7階 合同研究室2



内容：伝承の可変性・不変性のはざまを見極めながら、古典曲を体得し考察する楽しみを深めます。京都鳴滝を舞台にした歌舞伎浄瑠璃「うつぼ猿」を実践的に学び、浄瑠璃（語り）と三味線、それぞれの演奏・研究のレベルアップを目指します。《受講資格》連続講座・平成23年度E、26年度A、27年度Bのいずれかを受講された方。

- 9 / 8 第1回 近世・近代史料の再検討と課題設定
- 9 / 15 第2回 課題研究 1
- 9 / 29 第3回 課題研究 2
- 10 / 6 第4回 課題研究 3
- 10 / 13 第5回 課題研究 4
- 10 / 20 第6回 課題研究 5
- 10 / 27 第7回 試演会
- 11 / 3 第8回 まとめと評価

受講料 5,000円



### 連続講座 E 「琴の歴史と京都の琴士 1」

講師：武内恵美子（日本伝統音楽研究センター准教授）

開講日・時間：平成28年1月23日～2月6日。

期間中の土曜日、全3回、毎回13時～16時15分（15分休憩含む）

会場：京都市立芸術大学 新研究棟 7階 合同研究室 1

内容：琴（七弦琴／古琴）は奈良時代に伝来し、平安時代末に一度琴演奏習慣が途絶えた後、江戸時代に復興し、武士や文人層を中心に受容されました。単に楽器の演奏というだけでなく、中国の思想や文化を伴って受け入れられた独特な琴文化とはどのようなものだったのでしょうか。今回は初回到琴の歴史的な展開を概観、2回目は江戸時代の琴文化を語る上で外せない東臈心越関係について、3回目に京都で活躍した初期の琴の演奏家について紹介して

いきます。

- 1 / 23 第1回 琴の歴史概説 中国琴史概略、奈良～平安時代の琴
- 1 / 30 第2回 江戸時代における琴の伝承 東臈心越とその一派および『東臈琴譜』
- 2 / 6 第3回 京都の琴士 1 石川丈山・木下長嘯子・安藤朴翁他

受講料2,000円



### 連続講座 E 「平安末期の雅楽—藤原師長の琵琶譜『三五要録』と箏譜『仁智要録』を弾く—」

講師：田鍬智志（日本伝統音楽研究センター准教授）

共演：増田真結（本学非常勤講師 [作曲]、当センター共同研究員）ほか

開講日・時間：平成27年3月18日（10：30～16：00）、19日（13：00～90分程度）の2日間。

会場：京都市立芸術大学 新研究棟 7階 合同研究室 1

内容：雅楽は、平安前期に様式が確立したといわれていますが、中世以前のあらゆる資料から垣間見える音楽は明らかに現行とはかなり様式が違います。こんにちの雅楽では、箏・琵琶は伴奏楽器となっていますが、平安末期や鎌倉期の時点では、旋律楽器であったと考えざるをえません。平安末期の大音楽家、藤原師長は、琵琶譜『三五要録』と箏譜『仁智要録』を編纂し、院政期音楽資料の金字塔となっています。平成22年度『仁智要録』を弾く・聴く』につづいて、今回は師長の琵琶譜にもスポットをあてます。

3 / 18 第1回 会場：合同研究室 1

- ① こんにちの雅楽と平安末期・鎌倉期雅楽の音楽様式
- ② 藤原師長の生涯と『三五要録』『仁智要録』

③ 『三五要録』『仁智要録』にみる大曲 | 楽曲構成と構造 |

3 / 19 第 2 回 会場：大学会館ホール

『三五要録』『仁智要録』コンサート

—大曲を弾く—

・皇帝破陣楽 全曲・桃李花 全六帖

・萬秋楽 全曲 ・春鶯囀 全曲

受講料 2,000 円



◇第 1 回 5 月 21 日 日本の作曲の「近代」を聴く  
—山田耕筰と信時潔—

2015 年は明治以降の日本の近代洋楽史に大きな足跡を残した山田耕筰（1886-1965）と信時潔（1887-1965）の没後 50 年にあたります。山田耕筰と信時潔はともに洋楽創作の黎明期から戦時期を経て、戦後にいたるまで同じ時代を生きました。今回はこの山田耕筰と信時潔の創作の軌跡と事績を音源によって回顧します。

進行役：竹内 直（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）



## 伝音セミナー

◇特別伝音セミナー「安藤朴翁の琴韻を聴く」

企画・講師：武内恵美子（日本伝統音楽研究センター  
准教授）

演奏協力：伏見无家（疇社琴社主宰）

会場：京都市西文化会館ウエスティ

内容：安藤朴翁（1627-1702）は京都で儒学や和歌を学び、後に伏見宮に仕えた、江戸時代前期の国学者です。朴翁は琴の演奏家の中でも最初期の人物、木下長嘯子（1569-1649）に師事して琴に親しみ、京都独自の琴の流れをくみました。彼が貞享 4 年（1687）に作成させたとみられる琴は、田辺尚雄氏より寄贈され、現在は伝音センターに所蔵されています。その朴翁琴を修復し、今回およそ 330 年ぶりに縁のある京都の地で演奏することで復活を果たします。安藤朴翁が聴いたであろう琴韻を、琴演奏家の伏見无家氏の演奏で聴いていただきます。本企画は京都市立音楽芸術文化振興財団（ウエスティ）との共催です。

◇第 2 回 6 月 4 日 京都のうた

今回のテーマは京都府下の各地にまつわる唄です。戦前・戦後の二つの京都市歌をはじめ、昭和になって盛んに作られた伏見小唄、宇治音頭、西陣音頭、新舞鶴小唄などのご当地ソング、元々は映画主題歌だった祇園小唄、鴨川小唄、嵐山小唄、さらに福知山音頭の大正 4 年の歴史的録音など、盛り沢山な内容でお届けいたします。

進行役：大西 秀紀（日本伝統音楽研究センター非常勤

講師)



◇第3回 6月27日 舞楽いろいろ—映像でめぐる  
中央と地方の伝承—

舞楽は雅楽を伴奏とする舞です。舞楽には宮内庁式部職楽部など中央で伝承されている一方で、日本海沿岸や静岡・宮城など地方にも舞楽の伝承があります。両者は音楽も舞も似るところがほとんどなく、別モノといっても過言ではありません。なぜそんなことになっているのか？映像をながめながら少し考えてみましょう。

進行役：田鍬智志(日本伝統音楽研究センター准教授)



◇第4回 7月20日 15周年企画 特別伝音セミナー  
安藤朴翁の琴韻を聴く (前掲)

◇第5回 7月30日 秋田民謡を聴く

昨年ご紹介した掛唄にかぎらず、秋田は以前より民謡王国として知られる民謡の非常に盛んな地域で、現在でも「民謡長者の山全国大会」をはじめ10を超す民謡の全国大会が開かれています。今回は伝音にある秋田民謡の録音を聴きながら、その成立背景や変遷、民

謡の多様性について考えてみたいと思います。

進行役：梶丸 岳 (日本伝統音楽研究センター非常勤講師)



◇第6回 8月6日 辞典の話—「音楽」はどのように  
に記述されてきたのか—

19世紀からはじまる日本の近代化において、ひかえ目ながら、辞典は知識の普及に大きな役割を果たしてきました。今回のセミナーは、「音楽」はどのように記述されてきたのかということを軸に、近代日本の辞典を俯瞰する試みです。

進行役：上野 正章 (共同研究員)



◇第7回 9月3日 上方の囃子いろいろ—芝居・花  
街・寄席・相撲—

上方の芸能を見わたすと、芝居や寄席、相撲の一番太鼓、芝居や花街の手打ちなど相互の関わりが推測される囃子の存在に気づきます。今回は歴史的録音の中から、そうした芝居・花街・寄席・相撲など隣接諸芸能にまたがる囃子を聴き比べてみたいと思います。

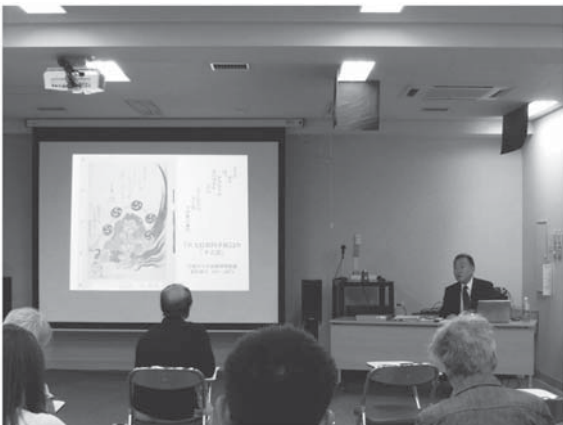
進行役：前島 美保 (日本学術振興会特別研究員)





◇第8回 10月1日 京都のうた2—祇園甲部の歌声  
 京の花街はいずれも腕利きの演奏家集団を擁 していて、中でも祇園甲部の芸妓達は SP レコードの初期から数多くの録音を残しています。今回は昭和9年の三世井上八千代長寿祝賀会で「翁」の地を勤めたメンバーによる常磐津「式三番叟」を中心に、長唄「雷」、地歌「雪」、「東山」、はやり唄「琉球節（さわぎ）」等の大正期の録音もお聴き頂きます

進行役：大西 秀紀（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）



◇第9回 11月5日 「京都一京ことばと古都の風物詩一」を聴く

高音質・長時間録音を可能にしたLPレコードの出現は、多くの傑出した音によるドキュメンタリーを生み出しました。昭和の京都を記録した『京都一京ことばと古都の風物詩』をご紹介します。

進行役：上野 正章（共同研究員）



◇第10回 12月3日 日本映画のなかの伝統音楽—1950年代の日本映画を中心に—

日本映画と伝統音楽との関わりは、サイレント時代から密接なものでした。トーキーの時代になり、映画における「音響」のあり方が変わるにつれて、映画のなかの伝統音楽の意味合いはどうか変化したのでしょうか。今回は『映画音響論』（みすず書房）で2014年のサントリー学芸賞を受賞された長門洋平氏をゲストに招き、1950年代の日本映画を軸に、映画のなかの伝統音楽を考えます。

進行役：竹内 直（日本伝統音楽研究センター非常勤講師）／長門 洋平（国際日本文化研究センター技術補佐員）



◇第11回 1月7日 平安末・鎌倉期の雅楽にみる太食調（たいしきちょう）の呂・律

雅楽の六調子の一つ、太食調。太平楽や長慶子などおなじみの曲はこの調子です。鎌倉時代の文献には「律呂の調なり」と書かれています。律でもあり呂でもある太食調とはどのような調子だったのでしょうか。それを強いて例えるならば同じキーのマイナー／メジャーが交錯する調べ。古楽譜の再現実演を交えて考



察してみます

進行役： 山口 敦子（大学院修士課程音楽研究科日本音楽研究専攻）

〈修士課程公開修了審査プレゼンテーション〉



#### ◇第12回 2月4日 金春流の謡をきく

京都の能楽界では、その存在があまり前面にでてこない金春流ですが、古くから存在する流派でもあるため、古風な特徴を残しているところもあると言われています。金春流の特徴をいくつか指摘しながら、金春流の名人による歴史的録音などを聞いていきたいと思えます。

進行役： 藤田 隆則（日本伝統音楽研究センター教授）



## 所長サロン

企画・進行：時田アリソン

「所長サロン」は、大学全体の方に声をかけて、ランチタイムですので、お弁当を持ち込んで食べながらお話を聞いてもらう形式です。2015年は、「海外の研究者と実践者による日本伝統音楽」Doing

Japanese Music Outside Japan というテーマを立てて、日本語ができる外国人をお呼びしました。日本の伝統音楽は、日本人の想像する以上に海外の様々な地域・国で演奏や研究されています。このシリーズでは海外における日本音楽の普及に長年努めてきた世界各地の様々な方にお話をお伺いしました。

4月22日の第1回はハワイ大学教授 Julie Iezzi 先生が「そのあたりのものでござる」(‘Sono atari no mono de gozaru’ - traditional Japanese music and theatre in Hawaii) という題でハワイの日本伝統音楽と歌舞伎公演の写真と動画を見せながらお話をしてくださいました。ご自身は常磐津の浄瑠璃が達人で、歌舞伎などの指導に大いに貢献しています。



5月12日の第2回はコロンビア大学の名誉教授 Barbara Ruch 先生が「日本音楽の将来、そのとき日本人はどこに」(Where are the Japanese in the Future of Japanese Music?) という挑発的なテーマでお話をいただきました。ルーシュ先生の活動は、外国人に日本の音楽に接し、習いやすくすること、日本人にも日本伝統音楽をもっと意識される方法を探ることです。そのために、日本音楽サミットをニューヨークと東京とで2回開いたそうです。コロンビア大学音楽学部に雅楽・邦楽プログラムをスタートさせるなど和楽器音楽の国際的普及に貢献しています。



第3回は6月19日にセンターに短期滞在中のアメリカ人作曲家 Paul Kikuchi さんが「自作を語る：Bat of No Bird Island (2013)、大比（おおび）礼（れ）(2015)」というタイトルで、自分の作曲活動と日系人としてのアイデンティティを探るプロセスについて、作品の一部を聞かせながら話してくださいました。



最終回は6月23日に立命館大学能楽研究者 Diego Pellechia さんが「能の道・能への道」(My journey into the Noh tradition) のタイトルで、イタリアで能との出会い、そして日本で能の道を追及した経験についてお話をくださいました。



[http://w3.kcuu.ac.jp/jtm/events/directors\\_salon/index.html](http://w3.kcuu.ac.jp/jtm/events/directors_salon/index.html)

## 図書室

### 利用案内

#### (1) 収蔵資料と目録

- ・研究者、学生、市民に向けて、日本伝統音楽とその関連領域の書籍・視聴覚資料や情報を提供しています。折にふれ、資料の展覧などもおこなっています。

(資料の種別：図書、展覧会図録、楽譜、逐次刊行物、視聴覚資料、その他日本伝統音楽に関する写本等)

- ・収蔵資料目録は、web サイトにおいてデータベース形式で公開しています。

#### (2) 図書室および収蔵資料を利用できる方

- ・本学の教職員（非常勤を含む）／学生
- ・調査研究のために利用を必要とされる方

#### (3) 開室日時と休室日

- ・開室日時 毎週水・木・金曜日

10時～17時(平成27年11月から昼休み(12時～13時)も開室しています。)

- ・休室日 月・火・土・日曜日、「国民の祝日に関する法律」で定める休日、入学試験期間中・年末年始・棚卸及び保守点検等の業務上の必要期間 ※その他、必要に応じて、休室することがあります。最新情報はweb サイトでご確認ください。

#### (4) 利用できるサービス

○閲覧

- ・資料は閲覧室でのみご利用いただけます。書庫内資料をご利用になる場合は受付カウンターにお申し込みください。
- ・本学の教職員・学生以外への資料の貸出は行っていません。
- ・複写サービスは行っていません。

#### ○視聴

- ・当室所蔵の CD・DVD・ビデオテープなどを視聴することができます。

#### ○レファレンスサービス

- ・毎週水・木・金曜日 10 時～ 17 時

#### ○その他

- ・本学教職員（非常勤講師を含む）及び本学学生のみ室外貸出を行っています。詳しくは web サイトをご覧ください。

#### (5) 資料のデジタル化と web 公開

- ・一部の音源資料・貴重資料・研究成果等は、web サイトにおいて、デジタル化したものを公開しています。

## 来訪者

- \* 2015.7.28 Haute école de musique Geneva, Professor Francis Biggi, Ms Yumiko Hiroi
- \* 2015.9.16 Universitat Trier, Japanologie, Professor Andreas Regelsberger
- \* 2015.11.19 岡山県操山中学校 学生 4 人
- \* 2015.11.27 竹本駒之助、神津武男
- \* 2015.12.16 東洋書院代表齋藤勝巳、井澤壽治のご子息
- \* 2016.1.13 能楽師 下掛宝生流 安田 登
- \* 2016.2.16 湖南師範大学音楽学院教授 薛, 羅 軍 Xue LuoJun
- \* 2016.3.18 法政大学教授 Steven G. Nelson

#### 短期滞在者

- \* 2015.4.1～6.30 スタンフォード大学 Jaroslaw Kapuscinski 准教授、パシフィック大学音楽院 François Rose 教授
- \* 2015.4.6～6.30 シアトル在住作曲家 ポール・キクチ Paul Kikuchi

\* 2015.10.1～2016.9.30 ライデン大学博士課程 Andrea Giolai

\* 2016.3.29～6.30 ニューヨーク在住作曲家 Miya Masaoka

## 歴史的音源からみる三味線音楽の旋律型研究

研究代表者：山田智恵子

プロジェクト研究（継続）

共同研究員：大久保真利子（福岡国際大学非常勤講師）、大西秀紀（京都市立芸術大学非常勤講師）、小塩さとみ（宮城教育大学教授）、蒲生郷昭（東京文化財研究所名誉研究員）、久保田敏子（京都市立芸術大学名誉教授）、薦田治子（武蔵野音楽大学教授）、田中悠美子（義太夫三味線演奏家、研究者）、寺田真由美（相模女子大学非常勤講師）、時田アリソン（京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長）、野川美穂子（東京芸術大学非常勤講師）、配川美加（放送大学非常勤講師）、廣井榮子（大阪教育大学非常勤講師）、吉野雪子（国立音楽大学非常勤講師）

## 開催趣旨：

町田佳馨は、五線譜による楽譜集『三味線声曲における旋律型の研究』以後、やり残した仕事のいくつかをLPレコードアルバムの形で発表している。それは現存三味線音楽に見られる、先行芸能・流行歌・古浄瑠璃などの引用の考証と、上方と江戸の音楽様式の違いの把握などであり、その考察の材料となる音源を多数残した。それらのレコードアルバムは、町田の三味線音楽研究人脈によってなされたもので、現在我々が演奏家の協力のもと同じことをしようとしても、かなり困難な状況にある。従って、その歴史的音源の内容を検討しつつ、三味線音楽における通ジャンルの旋律型を音から辿ることを試みる。各種の三味線音楽研究者との共同研究が必要であり、主に前年度からのメンバーの継続が中心となる。また、成果発表については、歴史的音源を使用して、市民講座のかたちで、一般に公開する予定である。

## 2015年度

第1回研究会 2015年6月13日（土）13時～16時

・第41回公開講座 「『平家』から見た日本音楽の歴史」（プロジェクト研究成果発表会）

会場：ウィングス京都イベントホール

協力：平家語り研究会

企画・構成・司会：薦田治子（武蔵野音楽大学教授・伝音共同研究員）

制作：山田智恵子

出演：平家（菊中央雄司、田中奈央一、日吉章吾）、雅楽（齊藤尚）、地歌（長谷川慎）、義太夫節（田中悠美子、伝音共同研究員）、山田流箏曲（田中奈央一）、義太夫 SP 音盤デジタル化・再生（大西秀紀、伝音共同研究員）

第2回研究会 2015年6月14日（日）10時半～17時 合同研究室2

- (1) 公開講座講評会 全員
- (2) 平家琵琶と義太夫三味線 田中悠美子
- (3) 町田佳馨作曲作品を聞く（その1）大西秀紀
- (4) 研究打ち合わせ



第3回研究会 2015年9月18日(金) 12時～17時30分 合同研究室2

- (1) 説経について 蒲生郷昭
- (2) 節談説教の鑑賞—その歴史的再評価と音声力の可能性 久保田敏子
- (3) 次回研究会打ち合わせ

第4回研究会 2016年1月23日(土) 11時～18時 合同研究室2

- (1) 長唄における説経 配川美加
- (2) 義太夫節における説経 山田智恵子
- (3) 次回研究会打ち合わせ

第5回研究会 2016年3月2日(水) 14時～21時 京都芸術センター講堂

- (1) 伝音センター開設15周年記念シンポジウム
- (2) 第44回公開講座「義太夫節 通し狂言の復曲」

第6回研究会 2016年3月3日〔木〕 11時～17時 合同研究室1

- (1) 公開講座講評会 全員(ゲスト 神津武男氏、太田暁子氏)
- (2) 小唄の作曲とその伝承—町田佳馨作曲の小唄を起点にして 寺田真由美
- (3) 町田の作品「三味線協奏曲第一番」を聴く 大西秀紀
- (4) 次年度の打ち合わせ

## 音曲面を中心とする能の演出の進化・多様化

研究代表者：藤田隆則

プロジェクト研究(継続)

共同研究員：安納真理子(東京工大)、上野正章、大谷節子(成城大)、大山範子、柴田真希、高橋葉子(本学客員研究員)、田草川みずき、田中敏文、玉村恭(上越教育大)、中尾薫(大阪大)、長田あかね、中嶋謙昌(灘高)、丹羽幸江(本学客員研究員)、Pellecchia Diego、森田都紀(京都造形芸大)、横山太郎(跡見学園女子大)

### 開催趣旨：

能の多くの登場人物は囃子にのって登場する。そして、すべての登場人物は台詞の一部を必ず歌う。能は音曲の要素なしにはなりたたないのである。室町期以来の伝承の過程で、能の音曲は、娯楽と社交の、儀礼遂行の、修道の、手段となっており、それにともない能の音曲は、構成やテクスチャーにおいて、独自の発展をとげ、日本の伝統芸能の中でもユニークな存在となっている。だが、ユニークさをうたっているわけにはいかない。時代の流れの中で、音曲は様々な影響を被り、変化を受けてきた事実があり、現代も新陳代謝を続けている。本研究会は、能の演出の進化・多様化を、音曲面を中心に見渡すことをめざす。

2015年度の研究会

時間：13時30分—17時

場所：日本伝統音楽研究センター合同研究室(新研究棟7階)

4月19日 Narrative perspective of the dead in warrior noh: The ambiguity expressed in

performance (藤田)

5月1日 出版作業部会

5月15日 出版作業部会

6月5日 「近代における京観世平岡家一門—明治末年から大正初年の謡番組を手掛かりとして」(中尾)、「室町時代の謡の記譜法と吟—早歌との比較から」(丹羽)

7月3日 出版作業部会

7月4日 「英語能<パゴダ>を中心に—新作能の創作過程と「演劇化」」(安納)、「京観世と御所—岩井家を中心に」(長田)

8月2日 「金剛流三輪神道の習事について」(高橋)

8月10日 伝統音楽普及促進事業「能楽講座」との合同研究会(場所:河村能舞台)

10月3日 公開講座「掛唄から見る即興と相互行為」との合同研究会(ゲスト:島添貴美子)

11月5日 出版作業部会

11月17日 出版作業部会

11月25日 金春流の謡をならう(ゲスト:西瀬英紀)

12月25日 「高桑いづみ著『能・狂言 謡の変遷の書評』(高橋、藤田)」「修学旅行生の鑑賞会で謡のワークショップにかんする報告」(田中)

12月26日 「そなへはた 序文、凡例、の翻訳について」(高橋、丹羽、藤田)「能の未来形について」(全員)

12月27日 伝統音楽普及促進事業「能楽講座」との合同研究会(場所:河村能舞台)

1月13日 「金春流の特徴について」「安田登氏にきく」(ゲスト:安田登)

1月14日 出版作業部会

2月4日 伝音セミナー「金春流の謡をきく」(藤田担当)との合同研究会

2月5日 「金剛流シテ方廣田幸稔氏にきく」(法政大学型継承研究会と合流、場所:キャンパスプラザ京都)

2月17日 公開研究会「伝統音楽における記譜について—声明と謡を中心に」(藤田)

2月29日 出版作業部会

3月2日 「伝統音楽の知に遊ぶ1日—まなぶ・かんじる・かんがえる」との合同集会(場所:京都芸術センター)

3月10日 「丹羽:下間少進節付本の五声十二律について」(丹羽)、「Narrative persona dissolved in unison singing: Warrior's narration of noh drama」(藤田)、「山口庄司氏の「色之定法聞書とそなへき」を読む」(高橋)

## 雅楽(舞楽) および関連芸能のいまとむかし

研究代表者: 田鍬智志

共同研究(2012年度開始・2015年度終了)

共同研究員: 遠藤徹(東京学芸大学准教授)、上野正章(大阪大学招聘研究員)、出口実紀(日本学術振興会特別研究員)、比嘉舞(大阪体育大学非常勤講師、奈良女子大学大学院博士研究員)、前島美保(日本学術振興会特別研究員)、増田真結(京都市立芸術大学・神戸女学院大学非常勤講師)、三島暁子(武蔵大学非常勤講師)。

雅楽は、千年以上もの伝承の過程で、紆余曲折を経ながらも、こんにちに伝えられてきたが、その音楽様式や芸態が、どのように変わってきたのであろうか。当研究会では、各時代の楽譜・舞譜・楽書・図像史料・こんにち

の中央 / 地方の伝承そのものなど、あらゆる史料にもとづいてその解明をめざした。

■『翻刻 雅楽小辞典—南都楽家辻家旧蔵（国立歴史民俗博物館蔵）—』編集全体会：2015年7月25日（土）、8月1-3日（土-月）、9月7日（月）、12月19-21日（土-月）、2016年3月24-25日（木金）。同部会：2015年5月21日（木）、6月18日（木）、10月22日（木）、2016年2月1日（月）。

『翻刻 雅楽小辞典—南都楽家辻家旧蔵（国立歴史民俗博物館蔵）—』出版にむけての校正作業等。

■連続講座F 関連部会：2015年12月9日（水）、2月29日（月）、3月1日（土）、3月9日（土）、3月11日（土）、3月19日（土）。

でんおん連続講座F「平安末期の雅楽—藤原師長の琵琶譜『三五要録』と箏譜『仁智要録』を弾く—」（2016年3月18-19日）のプログラム、「大曲を弾く」コンサート（19日）において、『三五要録』『仁智要録』および龍笛譜『懐中譜』（平安後期・一学説では鎌倉期）をもとに、六帖形式の楽章をふくむ大曲・准大曲・中曲の再現演奏を試みた。

大曲 《皇帝破陣楽》 一遊声・序・破（全六帖）—

准大曲《万秋楽》 一序（初半帖 中半帖 後半帖）・入破（楽拍子様 全六帖）—

中曲 《赤白桃李花》 一破（只拍子様 全六帖）—

大曲 《春鶯囀》 一遊声・序・颯踏（二返）・入破（只拍子様 二返）・鳥声（二返）・急声（二返）—

田鍬智志（琵琶・箏・訳譜）・増田真結（箏）。ゲスト研究員：GIOLAI Andrea（日本国際交流基金フェロー・ベネツィア大学／ライデン大学博士課程、龍笛）。協力者：伊藤慶佑（京都市立芸術大学音楽学部作曲専攻、龍笛）。

## 近代上方の歌舞伎音楽

研究代表者：竹内有一

共同研究（2015年度）

コーディネーター・共同研究員：前島美保（日本学術振興会特別研究員）

共同研究員：大西秀紀（京都市立芸術大学非常勤講師）、小西志保（竹内研究室研究嘱託、演奏家）、齊藤尚（京都市立芸術大学学芸員）、竹内道敬（元 国立音楽大学教授）、武内恵美子（京都市立芸術大学准教授）、土田牧子（東京芸術大学非常勤講師）、配川美加（東京芸術大学非常勤講師）、吉野雪子（国立音楽大学非常勤講師）

上方（関西）の歌舞伎とその音楽は、その地域的特色が失われつつあるとされるが、そもそも上方（関西）ならではの特色とはどのようなものなのか、それを歌舞伎音楽の現場で生かしていく方策はあるのか、といった課題を、研究者や実演家への取材、新聞や雑誌等に記された芸談、音源資料等を軸にして考える。

今回はとくに、長唄三味線方の杵屋富造（1902～1977）と、長唄唄方の杵屋胡金吾（1921～2009）の旧蔵史料を活用して、付帳「封印切」の読み込みや各種音源と実演家による芸談との照合などを行いながら、昭和期の上方の黒御簾音楽の実態と伝承に迫った。

下記の共同研究会のほか、コーディネーターの前島美保は、長唄・囃子の実演家・研究者等の関係者の協力により、聞き取り調査や資料収集（実演家旧蔵のツケ帳・譜本・音源等）を随時実施し、下記の各研究会においてその成果を報告した。

第1回 2015年4月30日（木）13:00～17:00

研究計画、場所：日本伝統音楽研究センター研究室（以下、特記なき場合は同じ）

- 第2回 2015年5月31日(日) 13:00～17:00  
 杵屋富造旧蔵「封印切」の付帳と芸談1、進行：前島
- 第3回 2015年6月12日(金) 13:00～17:00  
 杵屋富造旧蔵「封印切」の付帳と芸談2、進行：前島
- 第4回 2015年7月10日(金) 13:00～17:00  
 杵屋富造旧蔵「封印切」の付帳と芸談3、進行：前島
- 第5回 2015年8月20日(木) 13:00～15:00  
 現代上方の長唄・囃子方の現状と課題1、進行：前島、ゲストスピーカー：杵屋勝彦・杵屋浩基
- 第6回 2015年9月3日(木) 14:00～18:00  
 研究報告「上方の囃子いろいろ―芝居・花街・寄席・相撲―」(伝音セミナーと共催)、発表：前島
- 第7回 2015年9月4日(金) 13:00～17:00  
 現代上方の長唄・囃子方の現状と課題2、進行：前島、ゲストスピーカー：杵屋浩基
- 第8回 2015年9月11日(金) 13:00～17:00  
 関連資料の閲覧と複写、場所：都立中央図書館ほか
- 第9回 2015年9月12日(土) 10:00～15:00  
 同上
- 第10回 2015年10月14日(水) 13:00～17:00  
 稀少音源から戦前期の上方の長唄を聴く、進行：前島、ゲストスピーカー：杵屋浩基
- 第11回 2015年11月13日(金) 13:00～17:00  
 (1) 杵屋胡金吾師旧蔵資料について1、(2) 杵屋富造旧蔵「封印切」の付帳と芸談4、主担当：前島
- 第12回 2015年11月20日(金) 13:00～17:00  
 関連資料の閲覧と複写、場所：都立中央図書館ほか
- 第13回 2015年11月21日(土) 10:00～15:00  
 同上
- 第14回 2015年12月16日(水) 13:30～17:00  
 (1) 杵屋胡金吾師旧蔵資料について2、(2) 杵屋富造旧蔵「封印切」の付帳と芸談5、主担当：前島
- 第15回 2016年2月17日(水) 13:30～17:00  
 杵屋胡金吾師旧蔵資料について3、主担当：前島

## 近世日本における儒学の楽思想に関する思想史・文化史・音楽学的アプローチ

研究代表者：武内恵美子

共同研究 (2014年度開始、継続)

共同研究員：明木茂夫(中京大学教授)、遠藤徹(東京学芸大学准教授)、榎木亨(関西大学大学院博士課程後期課程/日本学術振興会特別研究員)、小林龍彦(前橋工科大学名誉教授)、小島康敬(国際基督教大学教授)、高橋博巳(金城学院大学教授)、平木實(天理大学元教授)、南谷美保(四天王寺大学教授)、山寺美紀子(國學院大學北海道短期大学部兼任講師)、渡辺信一郎(京都府立大学名誉教授)

江戸時代の儒学における音楽のあり方は、音楽学的知識と思想史の知識の両方を必要とするが、それぞれの分野で通用するほどに両分野に精通している研究者は申請者も含めて皆無である。それゆえ、それぞれの分野からの



共同研究が必須である。本共同研究では、音楽学の立場からは雅楽・琴の研究者を、思想史の立場からは礼楽思想、儒学教育史の研究者を、その他関連事項として和算研究、朝鮮文化研究の研究者を招聘する。それによって思想史・文化史・音楽学の総合的視野から、近世日本において礼楽思想における楽思想がどのように展開したのか、実際にどのような音楽が行われたのか、それによってどのような文化が生じ、他の音楽や文化に影響を及ぼしたのか等について研究する。

第1回 5月30日(土) 13:30～17:45

場所：新研究棟7階 合同2

内容：

発表1 平木實「林羅山の尺八観と正倉院所蔵の百済の尺八と関連して」

発表2 明木茂夫「清代文人の見た西洋鍵盤楽器」

第2回 5月31日(日) 10:30～15:30

場所：新研究棟7階 合同2

内容：

発表1 遠藤徹「催馬楽の復興をめぐる諸問題」

発表2 榎木享「日本近世期における朱子学者の雅楽観」

第3回 7月18日(土) 13:30～18:00

場所：新研究棟7階 合同2

内容：

発表1 武内恵美子「安藤朴翁と琴」

発表2 山寺美紀子「荻生徂徠の琴学とその周辺・その後」

第4回 7月19日(日) 10:30～15:30

場所：新研究棟7階 合同2

内容：

発表1 南谷美保「吉備真備と楽」

発表2 山田淳平(ゲストスピーカー)「吉宗の琴楽再興・宗武の楽曲研究・定信の雅楽実践」

第5回 7月20日(月) 13:00～14:40

場所：京都市西文化会館ウエスティ

内容：特別伝音セミナー「安藤朴翁の琴韻を聴く」

第6回 2016年2月13日(土) 13:30～17:45

場所：新研究棟7階 合同2

内容：

発表1：渡辺信一郎「大唐雅楽の成立」

発表2：高橋博巳「文人が見た玉堂琴士像」

第7回 2016年2月14日(日) 10:30～15:30

場所：新研究棟7階 合同2

内容：

発表1：小林龍彦「暦算家幸田親盈について」

発表2：小島康敬「『礼楽』論から見た江戸思想史ラフスケッチ」

第8回 2016年3月20日(日) 14:00～20:30

場所：林原美術館、後楽園他(岡山)

内容：

林原美術館 企画展「玉堂と文人画の世界—春を彩る館蔵名品とともに—」の閲覧、林原美術館学芸員と打ち合わせ

岡山後楽園 閲覧、大名家の文化について協議

共同研究会企画打ち合わせ

第9回 2016年3月21日(日) 9:00～17:30

場所：県立美術館、閑谷学校(岡山)

内容：

岡山県立美術館にて玉堂琴および資料調査

閑谷学校調査

県立美術館にて学芸員、館長と研究相談

## 大西 秀紀 「平成 27 年度伝音セミナー使用曲」

平成 27 年度の「伝音セミナー 日本の希少音楽資源にふれる (全 12 回)」について、報告者は第 2、8 回の計 2 回を担当した。各回の内容は次の通りである。

## ○第 2 回 京都のうた 2015.06.04

「今回のテーマは京都府下の各地にまつわる唄です。戦前・戦後の二つの京都市歌をはじめ、昭和になって盛んに作られた伏見小唄、宇治音頭、西陣音頭、新舞鶴小唄などのご当地ソング、元々は映画主題歌だった祇園小唄、鴨川小唄、嵐山小唄、さらに福知山音頭の大正 4 年の歴史的録音など、盛り沢山な内容でお届けいたします。(広報チラシより)」

- 
- |  |   |
|--|---|
| 1 映画小唄 祇園小唄<br>唄 二三吉<br>三味線 小静・秀葉・きん・琴歌<br>伴奏 ビクター和洋合奏団<br>ビクター 51037-A (昭和 5 年 1 月発売) | 8 新作民謡 新舞鶴小唄<br>唄 先斗町筆香<br>三味線 同 三智子 (ピアノ・鳴物入)<br>ビクター 51346-B (昭和 5 年 9 月発売)         |
| 2 映画主題歌 鴨川小唄<br>唄 先斗町筆香<br>三味線 同 三智子<br>ビクター 51243-B (昭和 5 年 7 月発売)                    | 9 福知山音頭<br>福知山町 勝子<br>同猪崎新地 一六、一鶴<br>オリエンタ A201 (大正 4 年 10 月発売)                       |
| 3 映画主題歌 嵐山小唄<br>唄 羽衣歌子<br>伴奏 日本ビクター管弦楽団<br>ビクター 51481-A (昭和 5 年 10 月発売)                | 10 西陣音頭<br>上七軒芸妓組合<br>テイチク 20003 (昭和 24 年制作カ)   |
| 4 独唱 京都行進曲<br>唄 四家文子<br>伴奏 日本ビクター管弦楽団<br>ビクター 51486-A (昭和 5 年 10 月発売)                  | 11 祇園まつり音頭<br>唄 島倉千代子、山形英夫<br>三味線 豊吉・豊文<br>コロムビアオーケストラ<br>コロムビア A2813 (昭和 32 年 6 月発売) |
| 5 新民謡 伏見小唄<br>唄 伏見 玉子・小奴・小金<br>三味線 同 貞・喜久栄外鳴物入<br>ビクター 50964-B (昭和 4 年 12 月発売)         | 12 歌謡曲 保津川下り<br>唄 三橋美智也<br>キングオーケストラ<br>キング N-371 (昭和 35 年 3 月発売)                     |
| 6 新民謡 宇治音頭<br>唄 二三吉<br>三味線 小静・秀葉 (鳴物入)<br>伴奏 日本ビクター管弦楽団<br>ビクター 51252-A (昭和 5 年 8 月発売) | 13 行進曲「京都市歌」<br>日本ポリドール管弦楽団<br>ポリドール AT-35 (昭和 13-14 年制作カ)                            |
| 7 新民謡 舞鶴小唄<br>唄 葭町二三吉<br>三味線 小静・秀葉 (鳴物入)   | 14 混声合唱 京都市歌<br>京都市立堀川高等学校<br>音楽専攻並二音楽コーラス<br>テイチク P-74 (昭和 26 年制作)                   |
- 

## ○第 8 回 京都のうた 2—祇園甲部の歌声 2016.10.01

「京の花街はいずれも腕利きの演奏家集団を擁 して、中でも祇園甲部の芸妓達は SP レコードの初期から数多くの録音を残しています。今回は昭和 9 年の三世井上八千代長寿祝賀会で「翁」の地を勤めたメンバーによる

常磐津「式三番叟」を中心に、長唄「雷」、地歌「雪」、はやり唄「琉球節（さわぎ）」等の大正期の録音もお聴き頂きます。（広報チラシより）

- 
- |  |  |
|--|--|
| <p>1 長唄 雷<br/>籾三〈唄〉 里勇・小君〈三〉<br/>小まじ〈太〉 かの子〈大〉<br/>梅葉・富葉〈小〉 花子〈笛〉<br/>オリメント 2020（大正 11 年 6 月発売）</p> <p>2 小唄 琉球節（さわぎ）<br/>里勇〈唄〉<br/>小豆〈三〉、他連中<br/>オリメント A214（大正 2 年発売カ）</p> <p>3 地唄 雪<br/>はな〈唄・三〉<br/>武田虎溪〈尺〉<br/>オリメント A463/A464（大正 2 年発売カ）</p> <p>4 祇園鉾はやし<br/>小まじ・君勇〈太〉<br/>徳葉・一子・かの子〈鉦〉<br/>花子〈笛〉<br/>オリメント A205（大正 2 年発売カ）</p> | <p>5 義太夫 三十三間堂<br/>木村家六助〈浄〉<br/>加藤溪水〈尺〉<br/>菊梅大検校〈箏〉<br/>クラブ 2146（昭和 3 年頃発売カ）</p> <p>6 常磐津 式三番叟<br/>籾勇・てい子・豆力〈浄〉<br/>三吉・竹吉〈三〉<br/>文字葉瑠〈上〉<br/>花子〈笛〉<br/>龍子・若里・政代〈小〉<br/>ふく〈大〉<br/>ほうがく 8261 - 8269 より（昭和 9 年<br/>6 月 15 日吹込）</p> <p>7 常磐津 八十（やそ）の翁の中野はん<br/>吉川英治作詩・杵屋弥三郎作曲<br/>祇園芸者衆<br/>キング N264（昭和 33-34 年制作カ）</p> |
|--|--|
- 

第 8 回の 7 曲目を「中野はん」が誰か分からないままお聴かせしたが、閉会後に参加者から「京都商工会議所会頭の中野種一郎氏（1876-1974）ではないか」とのご指摘を頂き、調査の結果その通りであることが判明した。伏見市長、府議、市議、京都商工会議所会頭等を歴任された。京都市名誉市民でもある。この曲が歌われたのは 80 歳の誕生日というよりも、昭和 31 年 5 月の藍綬褒章受賞や、昭和 34 年 6 月の紺綬褒章受賞の祝賀会あたりではないだろうか。いずれにしてもこのご指摘は京都ならではで、あらためてご教示に御礼申し上げる次第である。

◆関連する口頭発表

- \* 2016.06.14 「町田作曲作品のレコード」、プロジェクト研究「歴史的音源から見る三味線音楽の旋律型研究」、京都市立芸術大学
- \* 2016.02.28 「浪花節 名優中村鴈次郎を聴く」、大阪芸能懇話会、難波生涯学習センター

◆関連する報道

- \* 2015.04.17 京都新聞・朝刊「大正の国勢調査 PR レコード エンタツ・アチャコ初収録？」

<http://kyoto-np.co.jp/top/article/20150417000092>

- \* 2015.10.31 Web ニュース「THE PAGE」「初期国勢調査周知に「大大阪」の芸能人が活躍してた!？」  
<http://osaka.thepage.jp/detail/20151031-00000001-wordleafv>
- \* 2015.12.24 朝日新聞・朝刊「エンタツ・アチャコ、最初期音源発見 ボケとツッコミ逆」  
<http://www.asahi.com/articles/ASHDM6DNMHDMPFC00K.html>

## 梶丸 岳 「掛け合い歌『掛唄』の民族誌学的研究」

掛唄は「仙北荷方節」という民謡の節に即興で歌詞をつけて掛け合う伝統芸能である。現在は秋田県的美郷町にある熊野神社で例年 8 月に「全県かけ唄大会」が、9 月に横手市にある金澤八幡宮で「金澤八幡宮伝統掛唄大会」がそれぞれ開かれており、この両大会が掛唄の歌われるおもな舞台となっている。

本年度はまず掛唄の民族誌学的研究の土台となる方法論や本研究課題の広がりへの探究が進められた。まず共編著『フィールドの見方』において多彩な分野のフィールドワークの観点や手法を比較したうえで、これまで行っ



てきた自身のフィールドワークについて振り返り、人類学的フィールドワークのありかたを確認した。また、共編著『世界の手触り』に執筆した論考では、以前調査を行っていた中国貴州省の掛け合い歌「山歌」における身体の在り方を、大森荘蔵の「立ち現われ」論や近年人類学で注目されているパースペクティブ論を手掛かりに論じた。また、9月の社会言語科学会ワークショップ発表では、以前調査を行ったラオスの掛け合い歌「カップ・サムヌア」を事例として、共訳書『やりとりの言語学』に提示されている新パース派記号論の枠組みから相互行為を分析する手法を応用しながら、「状況づけられた出来事」として掛け合い歌を論じる可能性について探究した。本センター内の活動としては平成27年度第5回伝音セミナー「秋田民謡を聴く」において、掛唄以外の秋田民謡についてレビューを行った。これにより掛唄がどのような民謡の状況のなかに位置づけられているのかが明らかとなった。

掛唄については本年度も現地調査を行った。9月に行った現地調査では金澤八幡宮伝統掛唄大会において掛唄がどのように変わりつつあるのか、その運用形態や参加者の変遷などを調べ、昨年までとはまた異なった大会の変化を明らかにすることができた。また秋田県民謡協会へのインタビューを通じて、現在の秋田民謡の状況についての知見を深めることができた。10月には秋田県より保存会の方々をお招きして公開講座「掛唄から見る即興と相互行為」を開催した。ここでは掛唄の実演を披露していただくとともに、ディスカッションとして滋賀県立大学の細馬宏通先生、富山大学の島添貴美子先生をお招きして掛唄の面白さがどこにあるのかについて議論を深めることができた。さらに、年始には本センター紀要に掛唄の話題を定量的に抽出する試みを「掛唄で歌われることはなにかー計量テキスト分析による掛唄の話題抽出の試み」と題した論考として投稿したが、ここで積み残された問題について京都言語学コロキウムで発表し、コーパス言語学の観点から有益なコメントをいただいた。これについては今後さらに分析を行い、掛唄の民族誌記述に定量的な分析を組み込む可能性を模索していく予定である。また、3月には北陸人類学研究会で「Music in Action」をテーマとするパネルにおいて掛唄の直会におけるやりとりの分析を発表した。これは先述の記号論的枠組みに加えてエスノメソドロジー的手法を掛唄研究に導入する試みである。今後はこうした「出来事」に着目した分析から民族誌を編成する試みも進めていきたい。

◆関連する執筆

- \* 2015.4『世界の手触りーフィールド哲学入門』ナカニシヤ出版（佐藤知久・比嘉夏子と共編）
- \* 2015.6『フィールドの見方』古今書院（増田研・椎野若菜と共編）
- \* 2014.12『やりとりの言語学：関係性思考がつなぐ記号・認知・文化』大修館書店（横森大輔・木本幸憲・遠藤智子と共訳）
- \* 2015.9「掛け合い歌に陥入するコンテキスト：ラオスの掛け合い歌「カップ・サムヌア」を事例に」『社会言語科学会第36回大会発表論文集』pp.196-198.

◆関連する口頭発表

- \* 2015.5.9「ラオスの掛け合い歌「カップ・サムヌア」における場と掛け合い」アジア民族文化学会春季大会第29回大会、共立女子大学

- \* 2015.9.6「掛け合い歌に陥入するコンテキスト：ラオスの掛け合い歌「カップ・サムヌア」を事例に」社会言語科学会第36回大会、京都教育大学
- \* 2016.2.27「色恋の掛唄はなぜ色恋だとわかるか」京都言語学コロキウム、京都大学
- \* 2016.3.27「歌を掛け合う行為：掛唄の記号過程と社会」北陸人類学研究会第136回例会、富山大学

◆講義・講座等

- \* 2015.7.30 平成27年度第5回伝音セミナー「秋田民謡を聴く」、日本伝統音楽研究センター
- \* 2015.10.3 日本伝統音楽研究センター第42回公開講座「掛唄から見る即興と相互行為」企画構成、日本伝統音楽研究センター

◆資料・現地調査等

- \* 2015.9.13-2015.9.19 秋田県横手市にて掛唄現地調査

## 竹内 直 「日本の戦前・戦中期の民謡に基づく作曲」

報告者の日本伝統音楽研究センターでの研究課題は「日本の戦前・戦中期の民謡に基づく作曲」だが、本年度からは、とくに松平頼則の創作と民謡および日本の伝統音楽との関わりに焦点を当て、取り組んだ。

松平頼則の創作期間は1920年代末から2000年代にまで及ぶが、本年度はおもに創作の最初期にあたる1920年代から30年代と戦後の60年代から70年代にかけての作品や言説に関する資料調査を中心に行った。調査を行った年代に開きがあるのには理由がある。松平頼則は創作の初期には主として岩手県南部地方の民謡に取材した作品を多く残したが、その後は雅楽への関心が顕著になった。だが、松平は60年代末から70年代にかけて、雅楽以外の日本の伝統音楽や民謡に基づく作品を集中的に手がけた時期がある。調査の年代に開きがあるのは、こうした理由による。

1920年代から2000年代にいたる松平頼則の軌跡を辿ることは、日本の作曲史を辿ることにも繋がるということが可能だが、報告者自身は、松平の民謡あるいは伝統音楽に対する捉え方を考察することによって、日本の戦前・戦中期の民謡に対する捉え方と戦後になってからの捉え方との相違を検証することができると考えている。この課題については、論文の執筆も視野に入れながら、次年度も引き続き取り組んでいきたい。

前年度から本格的に取り組むようになった音源の制作については、本年度も継続して行った。音源制作の成果の一部は、松平頼則の最初期作品を収めたアルバム『Souvenirs d'enfance (幼年時代の思い出)』にまとめ、3月にリリースすることができた。演奏者の協力を得ながら作品を実際に音にしていく作業は研究上不可欠なことであると考えているが、こうした音源の制作については、今後も継続して行いたい。

最後に本研究センター内の活動について報告する。本年度は平成27年度伝音セミナー第1回「日本の作曲の『近代』を聴く——山田耕筰と信時潔——」と第10回「日本映画のなかの伝統音楽——1950年代の日本映画を中心に——」を担当した。第1回「日本の作曲の『近代』を聴く」は、2015年が没後50年にあつた山田耕筰と信時潔の創作の軌跡を回顧することを目的としたものである。この時の伝音セミナーに関連して、8月には京都芸術センターで行われた山田耕筰没後50年・戦後70年特別企画「ペトロフの見たニッポン——詩と音楽の時代——」に企画協力として参加した。第10回「日本映画のなかの伝統音楽」では、ゲストとして『映画音響論——溝口健二映画を聴く——』（みすず書房、2014）で第36回サントリー学芸賞〈芸術・文学部門〉を受賞した長門洋平氏を招き、溝口健二の映画『雨月物語』（1953）を題材に日本映画の中の伝統音楽の音に関する共同討議を行った。

### ◆関連する執筆

- \* 研究ノート「早坂文雄の音楽観——『汎東洋主義』の音楽論の形成過程を中心に——」、日本伝統音楽研究センター研究紀要『日本伝統音楽研究』第12号、1-12頁

### ◆講義・講座等

- \* 日本伝統音楽研究Ⅱ・Ⅲ、日本伝統音楽研究Ⅲ・Ⅳ、大学院音楽研究科
- \* 2015.05 平成27年度伝音セミナー第1回「日本の作曲の『近代』を聴く——山田耕筰と信時潔——」
- \* 2015.12 平成27年度伝音セミナー第10回「日本映画のなかの伝統音楽——1950年代の日本映画を中心に——」（国際日本文化研究センター技術補佐員の長門洋平氏と共同開催）

### ◆資料調査等

- \* 2015.05.28~29 上野学園大学図書館資料調査、明治学院大学図書館付属日本近代音楽館資料調査
- \* 2015.10.08~09 上野学園大学図書館資料調査、明治学院大学図書館付属日本近代音楽館資料調査
- \* 2015.10.12 国立国会図書館関西分館資料調査
- \* 2016.03.30 研究用音源収録、京都市立芸術大学講堂

### ◆プロデュース等

- \* 2015.08.05 山田耕筰没後50年・戦後70年特別企画「ペトロフの見たニッポン——詩と音楽の時代——」（企画協力）、京都市：京都芸術センター講堂
- \* 2016.03.03 音源制作『Souvenirs d'enfance』（Bel Oiseau）

## 高橋 葉子 「岩井七郎右衛門家音楽資料の調査研究」

本年度の日本伝統音楽研究センターでの活動は主に、1. プロジェクト研究「音曲面を中心とする能の演出の進化・多様化」での研究、2. プロジェクト研究「京観世の記録化」（2011 年度開始、2013 年度終了）の研究報告出版物の編集・執筆、の二点である。

1. 「音曲面を中心とする能の演出の進化・多様化」研究会は、所属研究員が各自の研究テーマと問題意識に立脚して、能の音楽と演出に関わる問題提起や活動報告を行っている。報告者は今年度、①金剛流《三輪》「神道」の演出について（2015.8.2）、②江戸中期観世流の中音域の旋律について（2015.12.26）、③山口庄司「色定法聞書とそなへき」について（2016.3.10）発表を行った。以下はその概要である。

①《三輪》は演出のヴァリエーションが多く各流に様々な習い事があるが、中でも「神道」は金剛流で一子相伝とされる重い習事である。報告者は金春流太鼓伝書『金春家太鼓秘書』（天保四年金春国義筆）中の「三輪神道神楽之事」を翻刻し、江戸初期に途絶えた「神道」の演出が、文化八年、徳川治済の意向を受け囃子方各役協議の上で再興された経緯、その具体的な型と手組、当時のシテ方と囃子方間の実演上の問題、および三ツ頭と摺拍子（幣の習）の伝承の変遷等を紹介した。加えて現代の上演例に基く横道萬里雄による「神道」解説について、習事の伝授・上演を巡る問題と、演出解説の問題点を指摘した。以上については更に考証し次年度中の公表を目指したい。②十五代観世大夫観世元章によって出版された明和改正謡本には、中音上で細かく音を浮かす、現在は謡われることのないフシが多数認められる。このフシはこれまで指摘されたことがなかったが、近年公開された岩井直恒の謡伝書『そなへはた』（天明六年）によって確認することができ、大正初期に岩井派から出版された常磐会謡本にも継承されていることがわかった。このことから『そなへはた』が、京都の謡に限らず、江戸中期の謡そのものを解明する資料であることも再確認できた。このフシの概略は本センターより次年度出版予定の『謡を楽しむ文化』『そなへはた』現代語訳の試みに記したが、今後さらに詳しい調査をおこなう予定である。③昭和 51 年発表の山口庄司の論考「色定法聞書とそなへき」は、後に補足されて『能音楽の研究・地方と中央』（昭和 62 年音楽之友社）に収められた。「そなへき」は岩井直恒の謡伝書『そなへはた』の当時の誤読である。報告者は、同論考には岩井家謡伝書公開以前の時代的制約があるほか、『色定法聞書』（国会図書館本）の読解譜における上音の解釈その他、文献記事の解読に対するいくつかの異議があることを提議した。一部については本紀要掲載の拙稿「江戸中期における謡曲音階論の形成」で言及した。

2. 「京観世の記録化」研究報告出版物『謡を楽しむ文化』は平成 27 年度中の刊行を予定していたが、様々な事情で遅れてしまい編集委員として責任を感じている。遅くとも 28 年夏には出版できるよう編集を急ぎたい。同出版物に、報告者は「岩井家旧蔵資料『能囃子心得』翻刻と解題」と『そなへ機』を現代語訳する試み（藤田隆則、丹羽幸江両氏との共著）の二篇を執筆した。前者の『能囃子心得』は、平成 24 年に本学名誉教授岩井弘氏から本センターに寄贈された資料の一つで、江戸中期の上方の能と謡の様相を伝える好資料であり、ここに記録された番囃子や一調の演奏形態の変遷は 1 のプロジェクト研究にも関わるものである。同書の内容は今後様々な方面から活用されるだろう。

今後の研究課題の中心は、引き続き岩井家の音楽伝書の調査を通じた江戸中期の能音楽の研究である。具体的には『そなへ機』全訳がその一つであるが、これまでの読解作業の中で報告者は、『あやはとり』『色定法聞書』等、他の岩井家謡伝書とあわせた総合的研究の必要性和有効性を強く感じた。岩井家の資料は、本センターのほ

か、大阪の大西家や法政大学能楽研究所等においても研究に供されている。これらと総合しながら本センター所蔵岩井家資料を活用し、研究を進めていきたい。

◆関連する執筆

\* 2016.3.31 書評「高桑いつみ『能・狂言 謡の変遷 世阿弥から現代まで』」『楽劇』第23号

◆関連する調査活動

\* 継続中『長命茂兵衛家旧蔵文書』の調査・分析に基づく年  
預の活動実態に関する研究  
(研究代表者 長田あかね)

## 丹羽 幸江

◆著作活動

\* 2015.11. 論文「祝詞の発声からみた儀礼の声」(中国語題名「从祈祷词的发声看礼仪之声」)、第11回中日音楽比較国際検討会編、新疆ウイグル芸術学院、pp.182-187。

◆口述活動

\* 2015.6.20 発表「室町時代の謡の記譜法と吟——早歌との比較から」、能楽学会第14回大会、東京：早稲田大学。  
\* 2016.3.10 研究報告「『下間少進手沢車屋謡本』の五声十二律」、研究代表者藤田隆則プロジェクト研究「音曲面を中心とする能の演出の進化・多様化から見た謡」、京都：京都市立芸術大学藤田教授研究室。

\* 2016.01.23 解説「能 采女」、第十一回いせさき能『采女』、いせさき能実行委員会主催、加藤眞悟顧問、群馬：伊勢崎市境総合文化センター。

◆調査活動

\* 継続中 基盤 C 「祝詞の音楽研究」に関する調査  
\* 能の謡における吟に関する古楽譜の調査

◆対外活動

\* 昭和音楽大学非常勤講師  
\* 楽劇学会委員  
\* 所属学会 日本音楽学会、東洋音楽学会、楽劇学会、儀礼学会、能楽学会、ICTM

## 前島 美保 「歌舞伎囃子に関する劇書・伝書の研究」

本研究は、歌舞伎囃子に関する劇書や伝書の史料研究を通して、近世から近代にかけての伝承のあり方を考察することを目的としている。これは日本学術振興会特別研究員の研究課題「上方歌舞伎の音楽演出に関する総合的研究」の一部をなすものでもあるが、とくに本研究と関連の深い活動について二、三報告する。

### ①同研究の成果

一年間、伝音センターにて「近代上方の歌舞伎音楽」に関する共同研究会（研究代表者 竹内有一氏）のコーディネーターを務めた。共同研究員の方々の協力と助言を得ながら附帳の読み合わせや杵屋富造資料調査等を進めてゆく中で、昭和期に活躍した杵屋胡金吾師の御家族と連絡が取れ、オープンリールを中心とした関係資料を調査できたことはとりわけ収穫であった。また杵屋浩基師をはじめ、関西の現状をよく知る長唄伝承者への聞き取りの機会が得られたことも、伝承の実態を知るきっかけになったと考える。これら共同研究の成果は、次年度以降にまとめてゆきたい。

### ②「芝居囃子日記」周辺の研究

六代目田中伝左衛門「芝居囃子日記」（嘉永六年以前成立）は、近世後期の江戸歌舞伎の慣習や囃子の伝承の実態を知る上で欠かせない筆録である。この日記は1973年に『日本庶民文化史料集成』第六巻歌舞伎に翻刻（西山松之助）されて以降、主に『日本庶民文化史料集成』本に依拠し研究が進められてきたが、改めて底本（町田本）や諸写本を確認したところ翻刻に再検討の余地があるように思われてきた。以上のような「芝居囃子日記」にまつわる諸問題を明らかにすべく、自主的な研究会を催し検討した。次年度以降も周辺の史料群と併せてさらに考察を進めたい。



### ③伝音セミナー

江戸時代の上方歌舞伎では、顔見世における「三社」や「手打」、二の替りの「鍛」など、上演演目とは別に様々な習慣や習俗が執り行われていた。こうしたことは劇書や芸談等でも触れられ具体的な様子が窺われるが（『増補戯場一覽』、『戯場楽屋図会拾遺』、『田中涼月歌舞伎囃子一代記』等）、現在ほとんど失われてしまっている。第7回伝音セミナーでは「上方の囃子いろいろ」と題し、かつての上方歌舞伎に見られた囃子を伴う習俗を周辺芸能（花街・寄席・相撲等）の中に探ることを試みた。大正以降の貴重な音源資料については大西秀紀氏にご協力を賜った。

#### ◆関連する執筆

- \* 2016.03 論文『『落葉集』と絵入狂言本にみる芝居歌—元禄期上方歌舞伎の調子選択—』、『東京藝術大学音楽学部紀要』第41集
- \* 2016.03 報告「諸本の解題と考察—吐山の太鼓踊りの歌本と太鼓譜—」、『吐山太鼓踊り調査報告書』
- \* 2016.06（予定）研究ノート「近世中期上方歌舞伎の大切所作事考—詞章にみる江戸との関わり—」、『日本伝統音

#### 楽研究』第13号

#### ◆関連する講義・講座等

- \* 2015年度共同研究（研究代表者竹内有一）「近代の上方歌舞伎音楽」、コーディネーター、日本伝統音楽研究センター
- \* 2015.09.03 平成27年度第7回伝音セミナー「上方の囃子いろいろ—芝居・花街・寄席・相撲—」、日本伝統音楽研究センター

## 時田 アリソン

## ◆著作活動

- \* 2016・1・25 項目執筆「箏（琴）と三味線」  
「鉦と太鼓」、神崎宣武・白幡洋三郎・井上章一編  
『日本文化事典』、丸善出版、pp.588-589、592-593
- \* 2015・7・30 「日本音楽の教え方」、京都新聞  
夕刊連載「現代のことば」
- \* 2015・9・30 「バイミュージカル」、同上
- \* 2015・12・1 「語り物と私」、同上
- \* 2016・2・2 「浪花節」、同上
- \* 2016・3・31 会員点描「IMS 2017 東京大会  
によせて」①、『日本音楽学会会報』96、pp.33-34

## ◆講演・口述活動

- \* 2015・6・17 Kyoto Lectures 2015 京都大学  
A Book Talk: Japanese Singers of Tales:  
Ten Centuries of Performed Narrative  
(Ashgate 2015)
- \* 2015・6・30 JSAA La Trobe University  
メルボルン 発表テーマ The Singer of Tales as  
Itinerant Performer
- \* 2015・7・01 JSAA La Trobe University  
メルボルン、発表テーマ Japanese Singers of  
Tales: Ten Centuries of Performed Narrative  
(Ashgate 2015) 出版記念会
- \* 2015・7・21 ICTM Astana カザフスタン 発  
表 テ ー マ Globetrotters and Performance  
circuits in East Asia, 1900-1945
- \* 2015・8・30 PSI 青森 発表テーマ The  
Singer of Tales as Itinerant Performer: the  
Michiyuki Trope in naniwa-bushi
- \* 2015・10・2 MSA シドニー大学 発表テーマ  
The Art Song as Colonial Modernity in East  
Asia:
- \* 2015・10・22 モスクワ音楽院 発表テーマ

Buddhist preaching through singing: kōshiki  
shōmyō

- \* 2015・10・31～11・1 東洋音楽学会 東京  
藝術大学出席

## ◆教育・講義活動

- \* 日本 伝 統 音 楽 演 習 a I・a III Orality and  
Textuality in Japanese Culture (日本文化にお  
ける口頭性と書記性)、京都市立芸術大学音楽学部
- \* 日本伝統音楽演習 a II・a IV The sociology of  
music in globalizing East Asia (東アジアの音  
楽と近代)
- \* 2014・8・18～20 連続講座 C PENDULUM  
英語による日本音楽概論

## ◆調査・取材活動

- \* 科学研究費採択(代表) 基盤研究 C「植民地にお  
ける近代音楽の帰属意識—東アジアとオーストラ  
リアの芸術歌曲の場合」平成 27 年～29 年 課題  
番号 15K02117
- \* 2016・2・31 国本武春お別れ会
- \* 2016・2・21～27 韓国総合芸術学院表敬訪  
問、韓国の芸術歌曲調査
- \* 2016・3・09 モナシユ大学訪問、オーストラ  
リアの芸術歌曲調査
- \* 2015・4・13 大阪、一心寺門前浪曲寄席
- \* 2015・5・10 大阪、一心寺門前浪曲寄席
- \* 2015・6・7 東京、木馬亭
- \* 2015・6・8 大阪、一心寺門前浪曲寄席
- \* 2015・7・11 大阪、一心寺門前浪曲寄席
- \* 2015・8・9 大阪、一心寺門前浪曲寄席
- \* 2015・9・13 大阪、一心寺門前浪曲寄席
- \* 2015・10・12 大阪、一心寺門前浪曲寄席
- \* 2016・1・11 大阪、一心寺門前浪曲寄席(講  
談研究者瀬戸智子を案内)
- \* 2016・2・7 大阪、一心寺門前浪曲寄席
- \* 2016・3・13 大阪、一心寺門前浪曲寄席

## ◆学内活動・委員、役職など

- ◇所長サロン(対談)

- \* 2015・4・22 ハワイ大学教授 Julie lezzi
- \* 2015・5・12 コロンビア大学名誉教授 Barbara Ruch
- \* 2015・6・19 作曲家 Paul Kikuchi
- \* 2015・6・23 立命館大学能楽研究者 Diego Pellechia

#### ◆委員会

教育研究審議会  
 施設整備委員会  
 国際交流委員会・作業部会  
 学術交流推進委員会  
 自己点検・評価委員会  
 全学人事組織委員会  
 全学入試委員会  
 芸術資源センター運営委員会  
 安全衛生委員会

#### ◆対外活動

国際日本研究センター 運営委員会会員

#### ◆所属学会など

国際文化会館 (1976-)  
 東洋音楽学会 (1978-)  
 日本音楽学会 (1993-2005; 2010-)  
 楽劇学会 (1993-)  
 口承文芸学会 (1995-2010)  
 日本漫画研究学会 (2004-2010)  
 芸能史研究学会 (2010-)  
 オーストラリア学会 (2010-)  
 Musicological Society of Australia (1978-)  
 Asian Studies Association of Australia(1978-)  
 Japanese Studies Association of Australia (1978-)  
 Japanese Studies Centre, Melbourne (1981-)  
 East Asian Library Resources Group of Australia (1993-)  
 Association for Asian Studies (1996-)  
 Korean Studies Association of Australia (1999-)  
 Australia-Japan Society of Victoria (2000-)  
 British Association for Japanese Studies (1995-2001)

Japan Anthropology Workshop (1995-)  
 European Association for Japanese Studies (1997-)  
 International Council for Traditional Music (ICTM) (2007-)

## 田 智 志

#### ◆著作活動（映像含む）

- \* 2015・07・31 DVD『雅楽 時空をこえた出会い—遠州の小京都 森町の舞楽×古代中世雅楽譜の解読—』、第38回公開講座(2014.9.14)記録、110min、企画・構成・監修・ナレーション：田智志、撮影・編集・デザイン：東正子。
- \* 2016・03・09「平安後期・鎌倉期の仏教と稚児舞楽の隆盛」、森町文芸三木の里編集委員会編『森町文芸三木の里』23号 pp10-12、静岡県森町教育委員会発行。
- \* 2016・03・19「平安末期における琵琶の秘曲—その音楽と信仰を再び—」、一般社団法人荻野校校顕彰会編・発行 DVD & 解説『平曲に登場する琵琶物語 平曲と雅楽—平成27年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業「平曲演奏家の育成に関わる基盤整備事業」成果報告書』pp32-41。付属DVD収録映像：秋風楽・琵琶五秘曲（大常博士楊真操・石上流泉・上原石上流泉・将律音・啄木）、演奏：田智志。
- \* 2016・03・30「中世仏教思想と遠江地方の芸能」対談「遠州一宮の祈り」、はままつプラチナ倶楽部編『ウナギラン—創造都市浜松の音楽文化資源を探るゼミナール—』pp24-29（対談：北島恵介＋田智志）。
- \* 2016・03・31「吐山太鼓踊り歌の旋律のつくりと類似旋律の分布」、奈良の文化遺産を活かした総合地域活性化事業実行委員会編『吐山の太鼓踊り調査報告書—奈良県無形民俗文化財調査報告書』第七章 pp45-52、奈良県教育委員会事務局文化財保護課発行。
- \* 2016・03・31『翻刻 雅楽小辞典—南都楽家辻家旧蔵（国立歴史民俗博物館蔵）—』京都市立芸術

大学日本伝統音楽研究センター研究報告 10、雅楽・舞楽および関連芸能のいまとむかし共同研究会編（共同研究会メンバーによる共編）。

#### ◆講座・講演・口述活動（実演つきを含む）

- \* 2015・05・27「舞楽いろいろ—映像でめぐる中央と地方の伝承—」、伝音セミナー第3回、当センター合同研究室1。
- \* 2015・10・31「浜松周辺の音楽資源のルーツをたどる」、ウナギラン—創造都市浜松の音楽文化資源を探るゼミナール—第2回、浜松市鴨江アートセンター。
- \* 2016・02・19「教える伝える—千年前は娯楽の音楽だった—」、京都新聞社企画「ソフィアがやってきた!」、於京都市立室町小学校（2016.04.03.朝刊掲載）。
- \* 2016・03・18-19「平安末期の雅楽—藤原師長の琵琶譜『三五要録』と箏譜『仁智要録』を弾く—」、でんおん連続講座F。演奏曲目：皇帝破陣楽全曲・万秋楽全曲・春鶯囀全曲・赤白桃李花（於コンサート）ほか。演奏：増田真結・伊藤慶佑・GIOLAI Andrea・山口敦子・田鍬智志。

#### ◆調査

因幡の麒麟獅子舞調査（鳥取県内）

- \* 2015・04・18-19 波津神社春季例祭・宇倍神社春祭御幸祭・高路神社例祭・伏野神社春季例祭（以上鳥取市）・米岡神社春祭（八頭町）
- \* 2015・04・28-29 上小路神社例祭・賀露神社例祭・真幡木神社春祭（以上鳥取市）
- \* 2015・05・16-17 聖神社例祭（鳥取市）
- \* 2015・05・24-25 立川稲荷神社大祭（鳥取市）・とっとり芸能祭り（利尻麒麟獅子舞出演・米子市）・第1回調査専門部会会議（県庁）
- \* 2015・07・24 菖蒲神社獅子舞聞き取り・北野神社例祭（以上鳥取市）
- \* 2015・07・26 下味野神社夏越祭（鳥取市）
- \* 2015・09・24-27 第2回調査専門部会会議（県庁）・池田家墓所燈籠会（宇倍神社獅子舞出演）・聖神社獅子舞聞き取り・袋河原神社例祭・片山神社例祭（以上鳥取市）
- \* 2015・10・12 湊神社例大祭（岩美町）

- \* 2015・10・25 久松公民館祭（湯所神社獅子舞出演・鳥取市）・伏野神社獅子舞聞き取り（鳥取市）
  - \* 2015・11・15-16 JAいなば河原支店収穫感謝祭（荒御崎神社獅子舞出演・鳥取市）・天乃神奈斐神社蔵獅子頭計測および伯耆神楽聞き取り（琴浦町）
  - \* 2016・01・01 白兔神社元旦祭・大森神社元旦祭（以上鳥取市）
  - \* 2016・03・27 塩見神社例祭・向垣神社例祭（以上鳥取市）
- 風流太鼓踊り調査（奈良県内）

- \* 2015・08・15-16 西川盆踊り（十津川村）
- \* 2015・11・14 吐山太鼓踊り練習立ちあい（奈良市）
- \* 2015・11・23 下部神社例祭吐山太鼓踊り（奈良市）

#### ◆学内活動

- \* 担当科目：日本音楽史 I（音楽学部）、日本伝統音楽研究、日本伝統音楽基礎演習（大学院音楽研究科）。
- \* 附属図書館芸術資料館運営委員会、自己点検評価委員会、ギャラリー@kcuva 運営委員会、学生委員会。
- \* 大学院修士入試委員会、教務委員会。

#### ◆対外活動

- \* 奈良県民俗調査・記録作成委員会委員。
- \* 鳥取県文化財保護審議会無形文化財・民俗文化財部会「因幡の麒麟獅子舞」調査専門部会専門委員。

## 竹内 有一

#### ◆著作活動

- \* 2016.03.31 編著『常磐津節演奏者名鑑 第5巻—近代3：明治期から昭和期まで（上）—』（常磐津節演奏者の経歴に関する調査報告書2015年度、文化庁補助事業）、常磐津節保存会、128pp
- \* 2016.01.25 項目執筆「長唄・小唄・端唄」「新内とギター流し」「浄瑠璃と義太夫」、神崎宣武ほか編著『日本文化事典』丸善出版、pp.578-579, 580-581, 594-595
- \* 2015.05.10 解説「上方舞：浪花音頭」「長唄舞



踊：歌右衛門狂乱」「地歌：残月」「箏曲：手事」「常磐津：お夏狂乱」「地歌舞：古道成寺」「長唄舞踊：娘道成寺」、「出演者素描」（10名）、国立文楽劇場第30回舞踊・邦楽公演『新進と花形による舞踊邦楽鑑賞会』パンフレット、日本芸術文化振興会、pp.3-8

- \* 2015.10.17 解説「長唄：松の翁」「地歌：ゆかりの月」「清元：鳥刺し」「義太夫・長唄：三ツ面椀久」「地歌：珠取海士」「長唄：髭櫓」「地歌：ゆき」「清元：保名」「上方唄：世界」「義太夫：道行恋亭環」「演奏者」、国立文楽劇場第33回舞踊公演『東西名流舞踊鑑賞会』パンフレット、日本芸術文化振興会、pp.6-17
- \* 2016.02.10 編集「上方座敷歌の研究」（井澤壽治編著『上方座敷歌の研究』日本伝統音楽研究センター委託研究成果物のweb公開版）、日本伝統音楽研究センター、webコンテンツ「伝音アーカイブズ」
- \* 2015.10 エッセイ「邦楽ってホントに面白いの?」「邦楽いろいろ」、「京都和の文化体験の日 邦楽入門の入門」、京都市文化市民局、pp.4-5、10-11
- \* 2015.11.24 エッセイ「邦楽入門の入門 web編」『みんなのミシマガジン』、ミシマ社、webコンテンツ
- \* 2016.01.01 エッセイ（共著）「『冥土通い』の痕跡を訪ねて—常磐津『墮地獄の段』にちなんで—」『関西常磐津協会機関誌 つどい』44、pp.2-4

#### ◆口述活動

- \* 2015.11.29 新聞掲載「教える伝える：三味線と語りで浮かぶよ物語」（京都市立花背小中学校）『ソフィアがやってきた!』、京都新聞朝刊、p.8
- \* 2016.01.12 新聞掲載「邦楽は面白い—浄瑠璃・常磐津節をめぐって—」『TUESDAY』、聖教新聞、p.12
- \* 2015.11.22 解説「演目解説」、NPO法人いよ和塾主催『常磐津節松山演奏会』、松山大手町ビル
- \* 2015.12.12 構成・司会・解説「はじめまして邦楽」、京都市主催 和の文化体験の日、大江能楽堂
- \* 2016.01.30 対談「常磐津節の楽しみ」、平成

27年度アール常磐津教室「常磐津おさらい会」、可児市文化創造センター

- \* 2016.03.02 座談会「義太夫節 通し狂言の復曲」、日本伝統音楽研究センター第44回公開講座、京都芸術センター
- \* 2016.03.29 構成・進行「子ども向け浄瑠璃ワークショップ」、京都市（計画局住宅室すまいまちづくり課）・京都市立芸術大学を核とした崇仁エリアマネジメント世話人会主催、東本願寺渉成園
- \* 共同研究「近代上方の歌舞伎音楽」研究代表者（詳細別掲）
- \* 勉強会「正本を読む会」座長

#### ◆教育・講義

- \* 2015.06～07 でんおん連続講座B「性と役を語り分ける—常磐津節「うつぼ猿」実践入門—」（全8回）、日本伝統音楽研究センター
  - \* 2015.09～11 でんおん連続講座D「常磐津節実践入門『うつぼ猿』その2」（全8回）、日本伝統音楽研究センター
  - \* 2015.12～2016.03 でんおん連続講座D補講「常磐津道場」（全8回）、日本伝統音楽研究センター
  - \* 2016.02 修士論文副査、京都市立芸術大学大学院美術研究科デザイン専攻
  - \* 前期 音楽学特講h、京都市立芸術大学音楽学部
  - \* 前期 音楽学特殊研究h、京都市立芸術大学大学院音楽研究科
  - \* 前期・後期 日本伝統音楽演習c、京都市立芸術大学大学院音楽研究科
  - \* 後期 日本音楽史Ⅱ、京都市立芸術大学音楽学部
  - \* 前期 京都文化学基礎演習Ⅲ「歌舞伎音楽入門」、京都府立大学文学部
  - \* 後期 京都文化学基礎演習Ⅳ「歌舞伎音楽研究」、京都府立大学文学部
  - \* クラブ指導「常磐津部」（同好会）、京都市立芸術大学・同大学院
- #### ◆調査・取材
- \* 常磐津節演奏者の経歴に関する調査（常磐津節保存会、文化庁補助事業）
  - \* 常磐津節ほか三味線音楽の伝承・演奏に関わる実態

調査（国立劇場・国立文楽劇場・京都南座・大阪松竹座・歌舞伎座・関西常磐津協会ほか）

- \* 『都新聞』等の新聞記事における芸能関係報道の調査およびデータ作成
- \* 詞章本出版物（近世版本）等の書誌調査およびデータ作成
- \* 人形浄瑠璃文楽の音楽学的復元上演に関する基礎的研究（日本学術振興会科学研究費補助金、研究課題番号 24320042、研究分担者）

#### ◆演奏活動（常磐津節浄瑠璃方、芸名：常磐津若音太夫）

- \* 2015.05.09 常磐津節（舞踊）「千代の友鶴」、国立文楽劇場第 31 回舞踊・邦楽公演『新進と花形による舞踊邦楽鑑賞会』、国立文楽劇場
- \* 2015.06.14 常磐津節「廓操無間の鐘優（梅ヶ枝）上」、『邦楽百番』、NHK-FM
- \* 2015.08.20 常磐津節「うつぼ猿」、でんおん連続講座 C「英語による日本音楽概論」（講師：時田アリソン）主催演奏会『日本音楽宝船』、京都市立芸術大学大会館ホール
- \* 2015.08.22～23 常磐津節（歌舞伎）「乱朝恋山崎」、第 25 回上方歌舞伎会、国立文楽劇場
- \* 2015.10.03 常磐津節「三世相錦織文章」より「墮地獄の段」「極楽浄土の段」、関西常磐津協会主催『第 76 回常磐津節公演会』、国立文楽劇場
- \* 2015.10.15 常磐津節（ワークショップ）「うつぼ猿」ほか、京都新聞社『ソフィアがやってきた』、京都市立花背小中学校
- \* 2015.12.02 常磐津節「年増」「願人坊主」、『邦楽のひととき』、NHK-FM
- \* 2015.12.12 新作「都十二月」、常磐津節（ワークショップ）「釣女」ほか、京都市主催 和の文化体験の日『はじめまして邦楽』、大江能楽堂
- \* 2016.02.01 常磐津節「常磐の老松」「地藏の道行」、常磐津節保存会主催『第 1 回伝承事業成果発表会』（文化庁補助事業）、京都芸術センター
- \* 2016.03.29 常磐津節（ワークショップ）「うつぼ猿」ほか、京都市（計画局住宅室すまいまちづくり課）・京都市立芸術大学を核とした崇仁エリアマネジメント世話人会主催『子ども向け浄瑠璃ワーク

ショップ』、東本願寺渉成園

#### ◆委員・役職等

- \* 文化庁 平成 28 年度次代の文化を創造する新進芸術家育成事業（伝統芸能、伝統工芸、文化財保存技術）審査委員
- \* 文化庁 平成 27 年度（第 66 回）芸術選奨推薦委員
- \* 京都市 五感で感じる和の文化事業検討委員会委員
- \* （一社）東洋音楽学会理事

〈学内〉

- \* 施設整備に関する会議 副座長
- \* 広報委員会委員、情報管理委員会委員

#### ◆所属学会等

- \* （一社）東洋音楽学会、楽劇学会、近世文学会、芸能史研究会、歌舞伎学会、国際浮世絵学会、洋学史研究会
- \* （一社）関西常磐津協会、常磐津協会

## 武内恵美子

#### ◆著作活動

- \* 2015.07.21 特別伝音セミナー「安藤朴翁の琴韻を聴く」配布資料
- \* 2015.10.22 モスクワ音楽院発表資料および曲目解説「日本における琴文化」
- \* 2014.10.19 国際基督教大学特別講義配布資料「上方歌舞伎の歴史と音楽—統計を用いてわかること—」
- \* 2015.6.2 京芸通信 リレーコラム「揚州の古琴工房「南風」見学」
- \* 2016.3.2 ワークショップ「古琴の思想と身体」「まなぶ・かんじる・かんがえる 伝統音楽の知に遊ぶ 1 日」第 1 部「伝統音楽の身体に触れる—新しい知にむけて」配布資料 京都市：京都芸術センター

#### ◆口述活動

- \* 2014.7.19 発表「安藤朴翁と琴」京都市：京都市立芸術大学新研究棟 7 階合同 2
- \* 2015.07.21 総合企画及び司会、解説 特別伝音セミナー「安藤朴翁の琴韻を聴く」京都市：京都市西文化会館ウエスティ

- \* 2015.10.17-18 シンポジウム「近代移行期における「音」と「音楽」ーグローバル化する地域文化の連続と変容ー」コメンテーター つくば市:筑波大学
- \* 2015.10.19 特別講義「上方歌舞伎の歴史と音楽ー統計を用いてわかることー」東京:国際基督教大学
- \* 2014.10.22 講演および演奏「日本における琴文化」ロシア:モスクワ音楽院
- \* 2016.3.2 ワークショップ「古琴の思想と身体」およびシンポジウム「まなぶ・かんじる・かんがえる 伝統音楽の知に遊ぶ1日」第1部「伝統音楽の身体に触れるー新しい知にむけて」京都市:京都芸術センター

#### ◆教育・講義

- \* 日本伝統音楽演習 b (前期 15 回、後期 15 回)、京都市立芸術大学大学院音楽研究科
- \* 原典購読 (前期 15 回)、京都市立芸術大学大学院音楽研究科
- \* 2015.6.19-21 京都造形芸術大学 伝統文化実践Ⅱ-2 (伝統邦楽 2) a 京都市:京都造形芸術大学
- \* 2016.1.30 講義 連続講座 E「琴の歴史と京都の琴 1」第 1 回 京都市:京都市立芸術大学新研究棟 7 階合同 1
- \* 2016. 2.6 講義 連続講座 E「琴の歴史と京都の琴 1」第 2 回 京都市:京都市立芸術大学新研究棟 7 階合同 1
- \* 2016. 2.13 講義 連続講座 E「琴の歴史と京都の琴 1」第 3 回 京都市:京都市立芸術大学新研究棟 7 階合同 1

#### ◆調査・取材

- 科学研究費補助金 基盤 B「近代移行期における「音」と「音楽」ーグローバル化する地域文化の連続と変容ー」(平成 27 ~ 30 年) (課題番号: 15H03232) (分担)
- \* 2015.5.22-24 東京・弘前調査 基盤 B「近代移行期における「音」と「音楽」ーグローバル化する地域文化の連続と変容ー」(課題番号: 15H03232) (分担)

- \* 2015.9.8 河合紅弦氏 一弦琴及び頼山陽伝来七弦琴調査
- \* 2015.9.9-12 東京国文学研究資料館、国会図書館調査 基盤 B「近代移行期における「音」と「音楽」ーグローバル化する地域文化の連続と変容ー」(課題番号: 15H03232) (分担)
- \* 2015.10.17-18 シンポジウム つくば大学
- \* 2015.11.4-8 上海・揚州 琴工場見学及び打ち合わせ、平湖杯視察および演奏、上海音楽学院訪問 (趙維平教授と面談)
- \* 2015.11.12-15 青森・弘前調査 基盤 B「近代移行期における「音」と「音楽」ーグローバル化する地域文化の連続と変容ー」(課題番号: 15H03232) (分担)
- \* 2016.2.17 詩仙堂 眉公琴調査
- \* 2016.3.15-19 モスクワ音楽院 研究打ち合わせ基盤 B「近代移行期における「音」と「音楽」ーグローバル化する地域文化の連続と変容ー」(課題番号: 15H03232) (分担)

#### ◆委員・役職等

- \* ハラスメント防止対策委員会委員
- \* 機関リポジトリ運営委員会委員
- \* 施設整備作業部会委員
- \* 将来構想委員会委員
- \* 情報管理委員会委員長
- \* 紀要編集委員会副委員長

#### ◆対外活動

- \* 東洋音楽学会機関誌編集委員会委員
- \* 京都造形芸術大学非常勤講師

#### ◆所属学会等

日本音楽学会、東洋音楽学会、情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会、弘前大学史学会、名古屋芸能文化会、楽劇学会

## 藤田 隆則

#### ◆著作活動

- \* 2016.02 単著エッセイ「場所を離す一能の民俗的リアリティへ」『上方芸能』199号 (2016年3月号) pp.32-33

- \* 2016.03 講演記録「民俗芸能の真正性・正統性はいかに維持されてきたか一人・制度・時間・空間」『愛知大学総合郷土研究所紀要』第61輯(2016年3月) pp.100-110
- \* 2016.03 講演記録「総合討論(このうち発言は2箇所)」『愛知大学総合郷土研究所紀要』第61輯(2016年3月) pp.124-132

#### ◆口述活動

- \* 2015.05.08 Paper presentation. "Narrative perspectives of the dead in warrior noh: The ambiguity expressed in performance." In 'War and remembrance: Cultural imprints of Japan's samurai age,' a symposium organized by Katherine Saltzman-Li, held on 8th May 2015, at the University of California, Santa Barbara.
- \* 2015.05.20 Lecture. "Music of noh." In the class organized by Jaroslaw Kapuscinski, at the Japan Center, Stanford University, Kyoto on 20th May 2015.
- \* 2015.07.21 Paper presentation. "Patron-amateurs and ascetic practices in the lesson of dance and song of Noh drama." International Council for Traditional Music 43rd World Conference. Astana, Kazakhstan: Kazakh National University of Arts.
- \* 2015.07.26 講演「能の「地」としての謡」国立能楽堂公開講座「能楽をより楽しむために(4) 謡(1)」、東京：国立能楽堂
- \* 2015.08.10 能の囃子ワークショップの解説と司会、(文化庁伝統音楽普及促進事業、代表：河村晴久)、京都市：河村能舞台
- \* 2015.08.27 講演「素謡の楽しみーひとつの音曲として」国立能楽堂公開講座「能楽をより楽しむために(5) 謡(2)」、東京：国立能楽堂
- \* 2015.09.13 発表「能楽の実践における手段の目的化ー芸道共同体の一般理論にむけて」シンポジウム『わざ継承の歴史と現在ー身体・記譜・共同体』(企画：横山太郎)、東京：法政大学

- \* 2015.11.28 講演「民俗芸能の真正性・正統性はいかに維持されてきたか一人・制度・時間・空間」『2015年度シンポジウム「三河／遠江の伝統芸能の歴史と現在、その継承に向けて」』、豊橋市：愛知大学
- \* 2015. 12. 13 講演「日本における仏教音楽の伝承の特徴とその楽譜」(日本語での講演、ロシア語への通訳:Aleksandra Aliushina) (平成27年12月13日)、ロシア(モスクワ)：チャイコフスキー記念国立モスクワ音楽院
- \* 2015.12.27 司会担当「文化庁伝統音楽普及促進事業一能は面白い」(代表：河村晴久)、京都市：河村能舞台
- \* 2016. 2.4 音源内容解説「金春流の謡をきく」(京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター(伝音セミナー第12回)京都市：京都市立芸術大学
- \* 2016. 2.17 講演および音源解説「伝統音楽における記譜についてー声明と謡を中心に」(日本伝統音楽研究センタープロジェクト研究「音曲面を中心とする能の演出の進化・多様化」と、芸術視点研究センター重点研究「記譜プロジェクト」の合同研究会)、京都市：京都市立芸術大学
- \* 2016.03.02 司会および趣旨説明「日本伝統音楽研究センター15周年記念シンポジウム 伝統音楽の身体にふれるー新しい知へ」、京都市：京都芸術センター
- \* 2016.03.04 司会担当「文化庁伝統音楽普及促進事業一能は面白い」(代表：河村晴久)、東京：セルリアン能楽堂

#### ◆プロデュース活動

- \* 2016.03.02 伝統音楽の知に遊ぶ1日ーまなぶ・かんじる・かんがえる 第1部 日本伝統音楽研究センター15周年記念シンポジウム「伝統音楽の身体にふれるー新しい知へ」の企画・構成、京都市：京都芸術センター

#### ◆調査・取材活動

- \* 継続中 謡曲・能の囃子の伝承にかかわる調査

#### ◆学内活動

- \* 国際交流委員会委員
- \* 学術交流推進委員会委員



- \* 教育研究審議会委員
- \* 芸術資源研究センター運営委員
- \* 大学院音楽研究科兼任(日本音楽研究専攻の授業担当)
- \* 学内非常勤(担当科目:民族音楽学(前期・後期) / 音楽学(前期・後期))

#### ◆ 対外活動

- \* 東洋音楽学会理事(編集事務局担当)
- \* 神戸女学院大学音楽学部非常勤講師(2015.09-2016.03)
- \* 文化庁芸術祭執行委員会審査委員(演劇部門)
- \* 所属学会 日本音楽学会、楽劇学会、東洋音楽学会、能楽学会、音楽教育学会、芸能史研究会、International Council for Traditional Music, Society for Ethnomusicology

## 山田智恵子

#### ◆ 著作活動

- \* 2015.06.13「開催の趣旨」『「平家」から見た日本音楽の歴史』(第41回公開講座プログラム) p1.
- \* 同上 編集『平家から見た日本音楽の歴史』(第41回公開講座プログラム)、全12頁(薦田治子と共編)。日本伝統音楽研究センター発行。
- \* 2015.11.28「開催の趣旨」『義太夫節の精華 竹本駒之助九段目を語る』(第43回公開講座プログラム) p2.
- \* 同上 解説「《九段目切山科隠家の段》の音楽構成と表」同上、pp12-14.
- \* 同上 編集『義太夫節の精華 竹本駒之助九段目を語る』(第43回公開講座プログラム)、全39頁。日本伝統音楽研究センター発行。
- \* 2016.03.02「開催の趣旨」『義太夫節 通し狂言の復曲』(第44回公開講座プログラム) p1.
- \* 同上 論文「復曲の方法と手順—《栗津合戦》を例として」同上、pp10-13.
- \* 同上 表「栗津合戦の段」の音楽構成 同上 p14.
- \* 同上 編集『義太夫節 通し狂言の復曲』(第44回公開講座プログラム) 全75頁(神津武男と共編)。日本伝統音楽研究センター発行。

- \* 2016.03.31 エッセイ「義太夫節を聴く力を育てたい」『京芸通信 19号』(コラム「京芸で、日本の伝統音楽に触れる」) p11.

#### ◆ 講演・口述・プロデュース活動

- \* 2015.05.13~07.15 でんおん連続講座 A「音楽としての義太夫節」全10回水曜日3限。合同研究室1。
- \* 2015.06.13「開催の趣旨」第41回公開講座「平家から見た日本音楽の歴史」の制作。ウィングス京都イベントホール。
- \* 2015.11.28「開催の趣旨」第43回公開講座「義太夫節の精華 竹本駒之助九段目を語る」の企画・構成・司会、制作。ウィングス京都イベントホール。
- \* 同、曲目解説「九段目切《山科隠家の段》の音楽構成」第43回公開講座。
- \* 2016.01.23 研究発表「義太夫節における説経」日本伝統音楽研究センタープロジェクト研究第4回研究会。合同研究室2
- \* 2016.03.02「開催の趣旨」、座談会「義太夫節および邦楽の復曲について」司会、アフタートーク「豊竹呂勢大夫師・鶴澤藤蔵師に今回の復曲について聞く」聞き手。第44回公開講座「義太夫節 通し狂言の復曲」企画・構成・司会、制作。京都芸術センター講堂。

#### ◆ 教育・講義活動

- \* 大学院音楽研究科兼任担当科目 日本伝統音楽研究、日本伝統音楽基礎演習、原典購読(後期)京都市立芸術大学大学院音楽研究科
- \* 独立行政法人日本芸術文化振興会伝統芸能伝承者養成研修「義太夫節」講義。

#### ◆ 調査・取材

- \* 科学研究費助成事業・基盤研究(B)課題番号24320042「人形浄瑠璃文楽の音楽学的復元上演に関する基礎的研究」研究代表者。
- \* 町田佳聲とその周辺の三味線音楽研究に関する調査。

#### ◆ 学内活動

- \* 京都市立芸術大学理事。

◆ 対外活動

- \* 独立行政法人日本芸術文化振興会伝統芸能伝承者  
(文楽・義太夫節) 養成研修講師
- \* 公益財団法人文楽協会評議員

◆ 所属学会

- \* 日本音楽学会
- \* 東洋音楽学会
- \* 楽劇学会
- \* 清元協会

## 修了者、修士論文題目

山口 敦子

「平安末期から鎌倉期における雅楽の律呂—太食調を中心に—」

(指導教員：田鍬智志)

## 論文要旨

(山口 敦子)

雅楽の平調と太食調は、どちらも E 音を主音とする調子で、古来より前者が律で後者が呂であるとされている。ところが中世の楽書を紐解くと、太食調（と黄鐘調）は「律呂の調なり」と書かれている。現在も太食調曲の箏の調絃には、律柱（平調調絃に同じ）と呂柱の両様があり、「半呂半律」「呂律混交の調子」などといわれるが、なぜそういわれるのか明確な説明はなされていない。本稿は平安時代末期から鎌倉時代にかけての雅楽譜による分析から、当時の太食調曲がどのような性格の調子であって、かつどのように律呂が認識されていたか検証し考察するものである。

序章においては、L.PICKEN の「基本旋律」説に従って各譜字があらわす音だけを分析・考察の対象とすることを述べ、また古今の雅楽器それぞれの音階と奏法を確認した。

第一章では分析に用いる平安末・鎌倉期の楽譜史料—笙譜『古譜律呂卷』『新撰笙笛譜』、琵琶譜『三五要録』『源経信筆琵琶譜』、箏譜『仁智要録』、龍笛譜『管眼集』—の書誌と記譜法について述べた。

第二章では六調子の律呂について、鎌倉時代の楽書にみられる記述をたどり、また先行研究を整理した。律呂の相違は音階理論上の第三音にあり、主音から長三度である旋法の総称が呂、短三度である旋法の総称が律であると指摘する峯雅彦氏の説に立脚し、律呂を決定づける第三音に着目して、太食調曲の考察をすすめることを述べた。

第三章では、旋律音進行分析のため、上記古楽譜に収載された太食調曲ほぼ全曲（枝調子とされる乞食調を含む）を五線訳譜し、各譜の比較を試みた。『三五要録』収載曲順にしたがって分析・考察した結果、琵琶譜と笙譜にはそれぞれ第三音にあたる G と G # 音の揺らぎや使い分けがみられた。また楽章ごとに律・呂が交替する例—《太平楽》—や、一曲中に G と G # が混在する例があって、律・呂どちらにも定まらない揺らぎや不安定感を特徴とする調子であることがわかった。律呂の交錯する調べこそが太食調曲最大の特徴といえよう。

最終章においては、太食調に呂律混交がおこった理由を探った。『胡琴教録』などの楽書の記述から、律か呂かを決定づける第三音 G # を龍笛が出せないことによる、笙や絃の妥協であり回避であり合奏上の工夫であったことを裏付けて、結びとした。黄鐘調と水調に関してはあらためて考察したい。

なお、特徴的な太食調曲を選んで再現演奏を試み、合奏の CD を添付した。